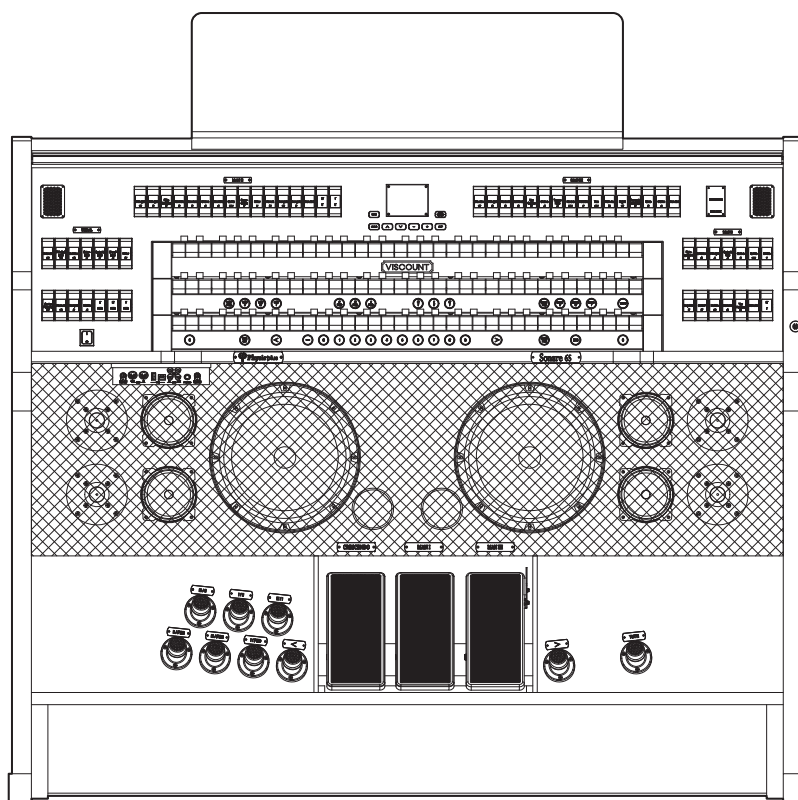




VISCOUNT

CLASSIC ORGAN

Sonare series



Φ P^hysis⁺plus

取扱説明書

(オペレーティングシステムバージョン:1.8.0)

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている警告マークについて

本体には、次の警告マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



必ず実行

電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。

確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。アース接続をはずす場合は、電源プラグをコンセントから取りはずしてから行ってください。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にとろそくなど火気のあるものを置かない。

とろそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

本体を壁につけない。

換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。壁から3cm以上離してください。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグへ容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネルや鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、オルガンやコントローラー（ノブ、ボタンなど）、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。

ベンチ



禁止

不安定な場所に置かない。
ベンチが転倒して、お客様やほかの方々がかがをする原因になります。



禁止

ベンチで遊んだり、ベンチを踏み台にしたりしない。
ベンチが転倒したりこわれたりして、お客様がかがをする原因になります。



禁止

ベンチには二人以上ですわらない。
ベンチが転倒したりこわれたりして、お客様がかがをする原因になります。



必ず実行

組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。
手順どおりに正しく組み立てないと、ベンチが破損したり、お客様がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

ベンチのネジを定期的に締め直す。
ベンチを長期間使用すると、ベンチのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属の専用レンチで締め直してください。



必ず実行

ベンチの脚で床を傷つけないよう注意する。
ベンチの下にマットを敷くなどして、床を保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。
背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。



必ず実行

ベンチを手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布を使用する。
ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

ベンチの組み立て方

 硬くて平らな場所で組み立ててください。

付属品をご確認ください。

- | | |
|-------------|----|
| • 座板 | 1枚 |
| • 側板 | 2枚 |
| • フットレスト | 1個 |
| • ネジ(M6×45) | 8個 |
| • 専用レンチ | 1個 |

1. 側板(脚)を取り付ける。

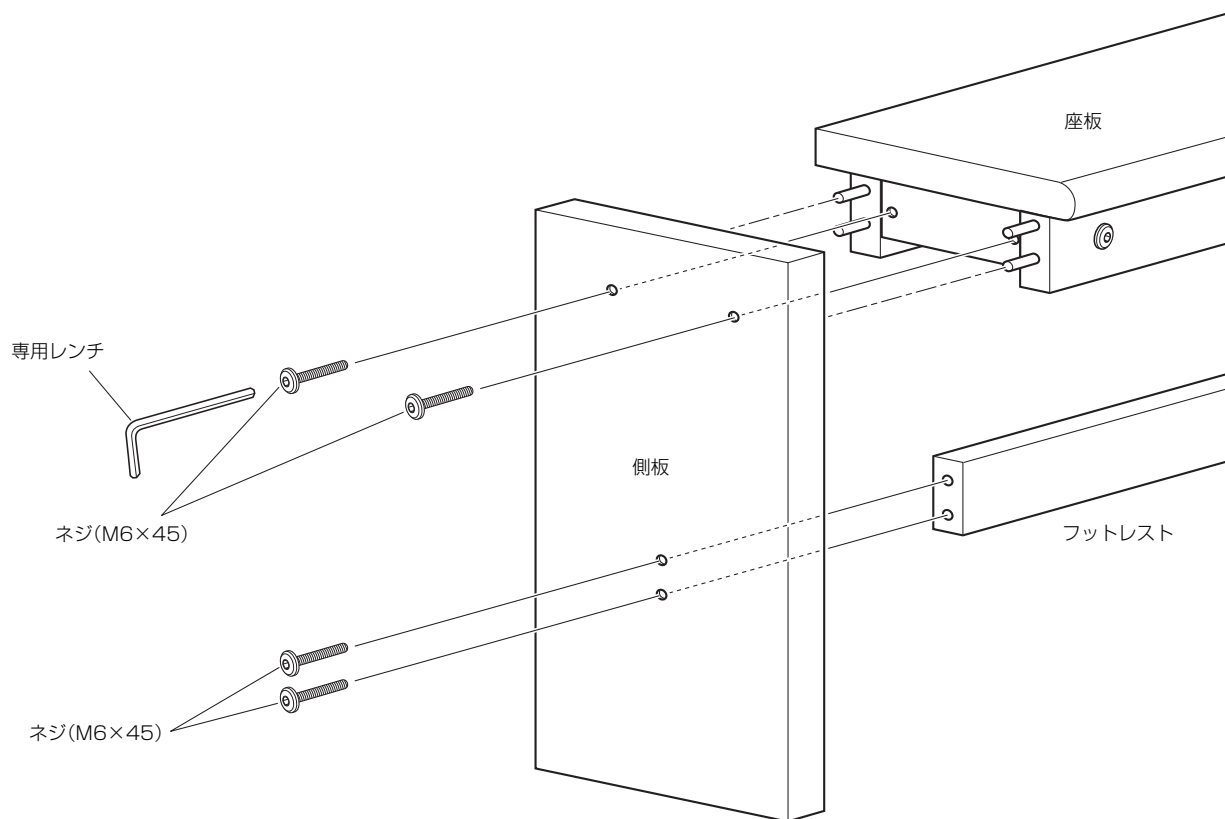
付属のネジ(M6×45)で側板を座板に取り付けます。側板を座板側に押さえつけながら、付属の専用レンチでネジを締めます。同様に側板をフットレストに取り付けます。

2. ベンチを設置場所に置き、ぐらつきがないか確認する。

ぐらつく場合は、専用レンチでネジを締めなおします。

3. ネジにゆるみがないか確認する。

ゆるみがある場合は、座板と側板のすき間がなくなるまで、ネジをしっかり締め付けてください。



足鍵盤の取り付け方

足鍵盤は簡単に取り付けたり、取り外したりできます。

足鍵盤には平行凹型と扇凹型の 2 タイプがあります。以下では平行凹型で説明していますが、扇凹型も同じ手順で取り付けます。

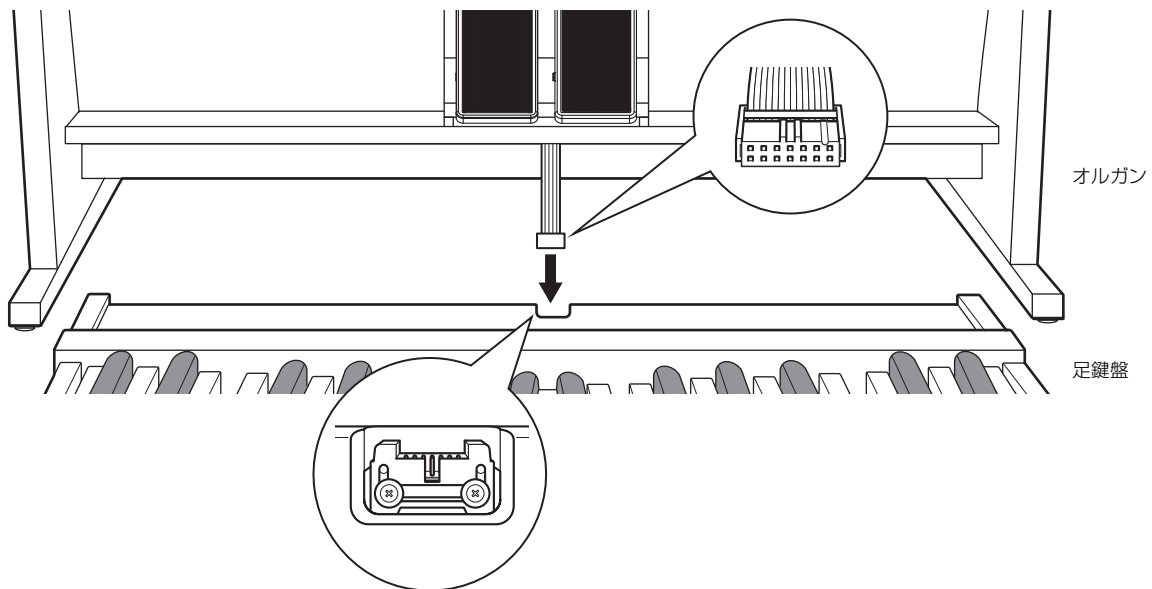
 足鍵盤は大変重いため、作業時はけがをしないようにご注意ください。

 足鍵盤を取り付けたり、取り外したりするときは、オルガン本体の電源がオフになっていることを確認してください。

1. オルガンの中央から出ているケーブルを、足鍵盤の端子に接続する。

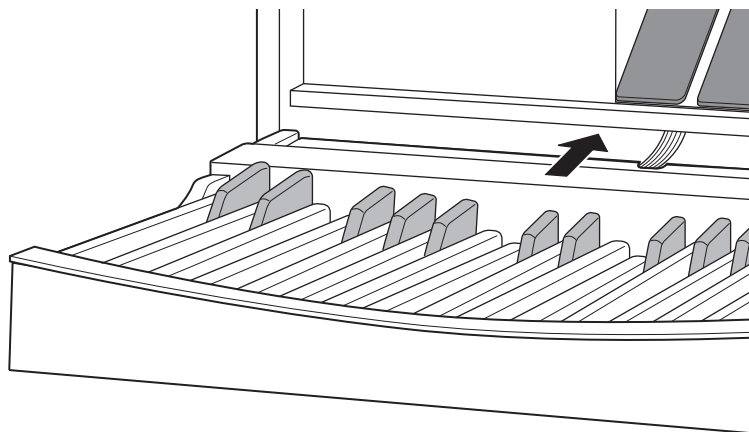
ケーブルのコネクターと足鍵盤の端子の向きを確認のうえ、間違えないように接続してください。

また、ケーブルのコネクターは無理やり奥まで差し込まないようにしてください。

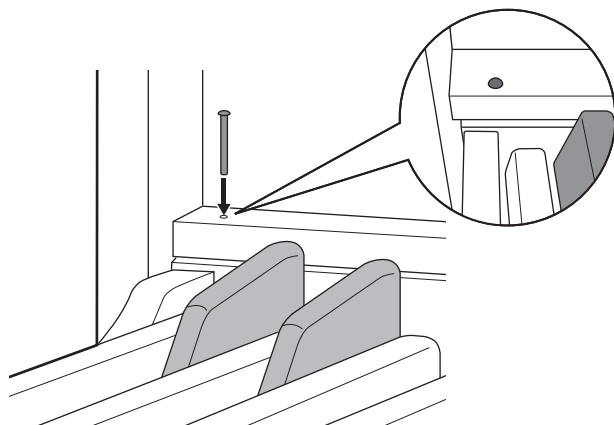


2. 足鍵盤をオルガン側に押し込む。

ケーブルをオルガンと足鍵盤の間にはさまないようにご注意ください。



3. ピンを左右2カ所に差し込んで、オルガンと足鍵盤を固定する。
品番によっては、ピンを使用しない場合があります。



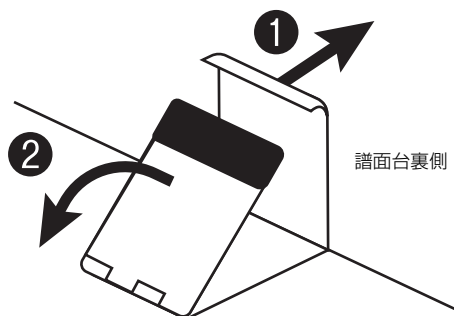
運搬/移動時のご注意

オルガンを移動するときは、以下の点にご注意ください。

- 移動する前に、必ず足鍵盤を取り外してください。
- 電源コードをコンセントから抜き、他の機器との接続コードは取り外してください。コード類はオルガンの下に巻き込まないようにしてください。
- オルガン背面の両側に取っ手用の穴があいていますので、移動時にお使いください。

譜面台のたたみ方

譜面台を手前に引き、譜面台裏側のロックを解除してください。



目 次

重要な注意事項	11
製品の取り扱い / お手入れに関する注意	11
データの保存に関する注意	11
データの著作権に関するお願い	11
OS のバージョンアップについて	12
取扱説明書に関するお知らせ	13
各部の名称とはたらき	14
はじめに	23
電源を入れる	23
メイン画面について	23
メニューの操作方法	24
パイプセットを選んで演奏する	25
パイプセットを選ぶ	26
パイプセットをコピーする	27
基本設定を使って演奏する	28
音色を選ぶ	28
音量を調節する	28
残響（リバーブ）を設定する	29
移調を設定する	32
ピッチを調節する	32
調律の種類を選ぶ	33
ペダルを使う	34
便利な機能	36
オートマチックペダル機能	36
エンクローズド機能	37
キャンセル機能	37
トゥッティ機能	37
音色メモリーを使う	38
コンビネーションスロット（CMB）について	38
コンビネーションをメモリーに保存する	39
保存したコンビネーションを呼び出す	39
交換ボイスを使う	40
オルガンボイスを交換する	40
オーケストラボイスを交換する	40
ベロシティを設定する	41
サラウンドシステムを調節する	42
リア接続パネルの【PROG. OUT】端子を設定する	43

MAIN MENU の概要	44
MAIN MENU 一覧	44
MAIN MENU 詳細	45
録音と再生 (SEQUENCER 機能)	49
曲を再生する (PLAY)	50
再生オプションを選ぶ (PLAY OPTIONS)	50
曲を録音する (RECORD)	51
プレイリストを作成する (SONG LIST)	52
曲を削除する (DELETE)	52
ボリュームの調節 (LEVELS 機能)	53
ボイスの選択と調節 (VOICING メニュー)	54
付録	56
おかしいと思ったら	57
オルガンの設定のみを工場出荷時に戻す	57
コンビネーションスロット (CMB) とメモリーバンク	58
音色リスト	59
ソングリスト	60
製品仕様	61
保証とアフターサービス	63

付属品

- 取扱説明書×1 (右記QRコードよりダウンロード可能)
- バイカウント製品保証書×1
- ロールスライドカバー用鍵 (Sonare 65のみ)
- 足鍵盤用固定ピン×2 (品番によっては、ピンを使用しない場合があります)
- ベンチ×1



フィシスプラスとは？

「フィシスプラス」とは、バイカウント社が特許取得した最新テクノロジーによる新たな音源技術です。「フィシスプラス」によって創られた新たなモデリング音源は、最新のモデリング技術と人工知能アルゴリズムを組み合わせで開発されました。従来のモデリング音源に備わったパイプオルガンの構造、発音原理を再現する豊かで臨場感ある音色に加え、より追求されたリアルなパイプオルガンサウンドを実現可能にしました。特に各音色の立ち上がりの特徴を磨き上げ、風がパイプを通り発音するときのリアルなノイズを追加するなど、より本物のパイプオルガンに忠実な細かい設定も施されています。また、新たなリバーブ 16 種を選択可能にし、全モデルに交換可能なオーケストラボイスも搭載。オルガン愛好家の皆様に、かつてないリアルなパイプオルガン音色による演奏体験に導きます。

重要な注意事項

製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色／変質する原因になります。
- 本体を手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色／変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ベンチを手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色／変質する原因になりますので、使用しないでください。
- アンプや拡張システムに接続するときは、必ず高品質のシールドケーブルをご使用ください。
- 電源コードはアース付きのコンセントに接続してください。

データの保存に関する注意

- 本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBメモリーに保存してください。
- 保存したUSBメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBメモリーにバックアップとして保存されることをおすすめします。

データの著作権に関するお願い

- バイカウント社および第三者から提供されている音楽／サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

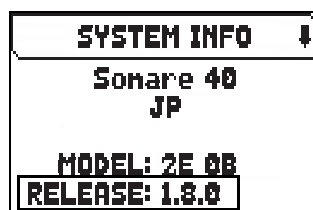
OSのバージョンアップについて

- OSのバージョンアップについては、バイカウント社サイトをご確認ください。
<https://www.viscountinstruments.com/products/classics/classic-organs/maestro-organs/maestro-40/>
 ※「MAESTRO」は日本国外でのシリーズ名称です。URL 最後尾の数字2桁は、ご所有の品番(40/65のいずれか)に変更して閲覧ください。

【バージョン確認方法】

- 液晶画面メイン画面で[MENU/ENTER]を押す。
- UTILITYを選択、[MENU/ENTER]を押し、「SYSTEM INFO」を選択して[MENU/ENTER]を押すと本体バージョンの確認が可能です。

■ バージョン情報確認箇所(以下枠線部分のRELEASEがシステムバージョンです。)



※この場合はVer.1.8.0のRELEASE例となります。

【手順】★バージョンアップは数分（バージョンにより前後あり）

- ※メッセージ表示内容や手順がバージョンにより一部異なる場合があります。
- ※バージョンアップ失敗による故障等への補償はいたしかねますので、ご了承ください。

- バイカウント社HPよりダウンロードし解凍したバージョンデータファイル(.phx)をUSBメモリーに入れ、本体に差し込みます。

■ PC画面イメージ(フォルダには入れず一番上の階層にコピーする)

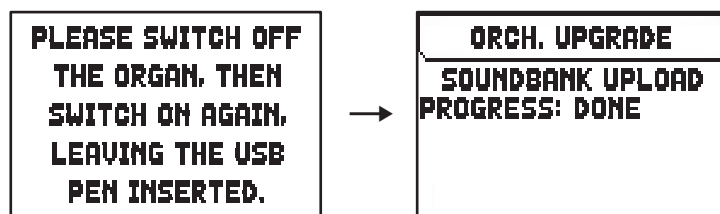


- 通常起動し、UTILITYメニューで「OP.SYS. UPGRADE」を選択すると以下のメッセージが表示され、USB内の情報確認を行います。※この時点で数分掛かる場合があります。

■ USB保存データバージョンと本体バージョン表示(表示内容は変更となることがあります)



3. [ENTER] ボタンを押すとバージョンアップが開始され、途中で以下のメッセージが表示されますので、USB を抜かずに本体の電源を入り切りします。



最後に「SOUNDBANK UPLOAD PROGRESS: DONE」の表示が出た後、液晶画面がメイン画面の表示になったら、バージョンアップ成功です。

4. 無事に起動したら再度電源を切って、USB を抜いてバージョンを確認し、工場出荷時の初期設定にリセット(57 ページ参照)して終了です。

注意！

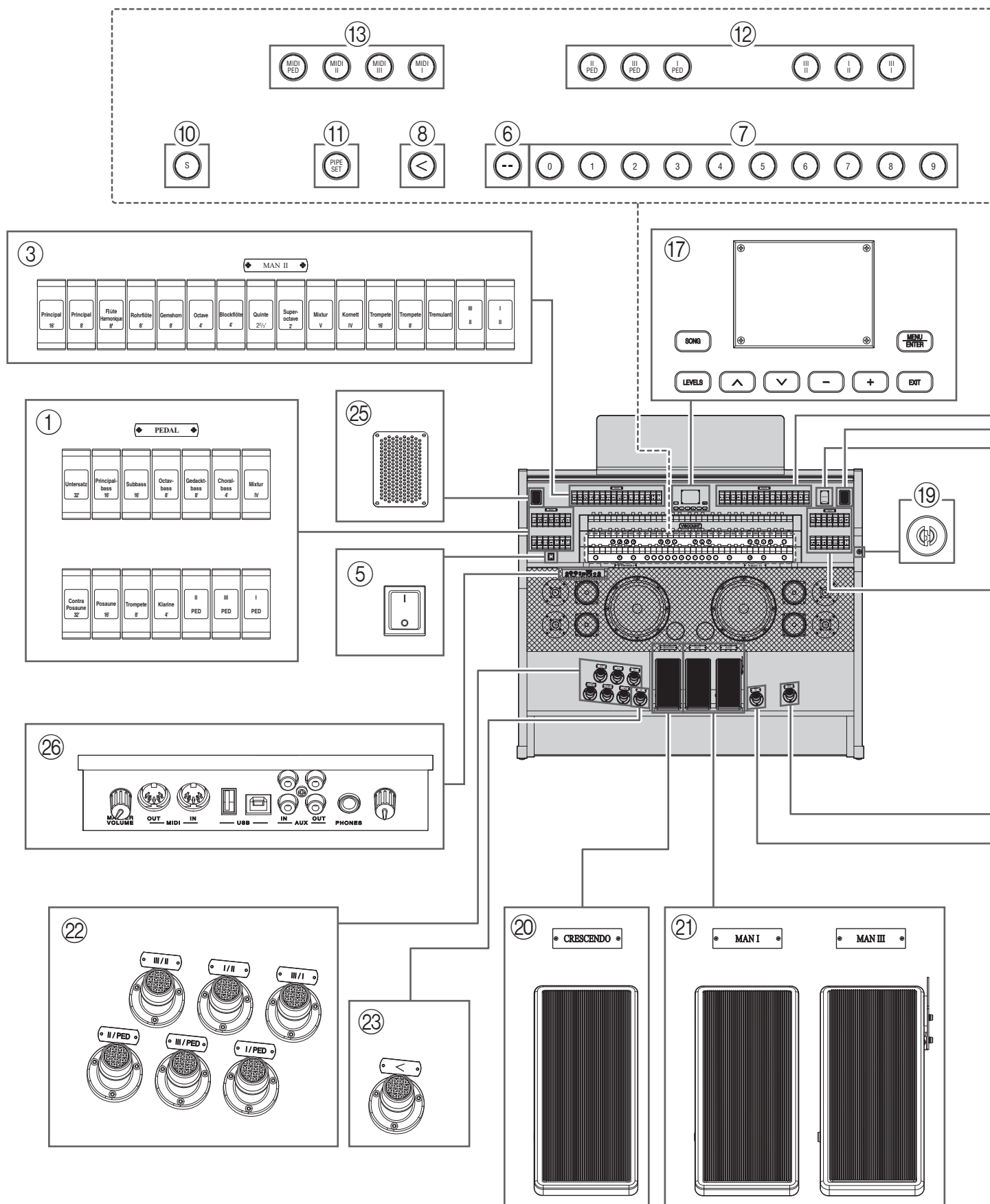
- 工場出荷時の初期設定にリセットの際、保存したコンビネーションなどの消失にご注意ください

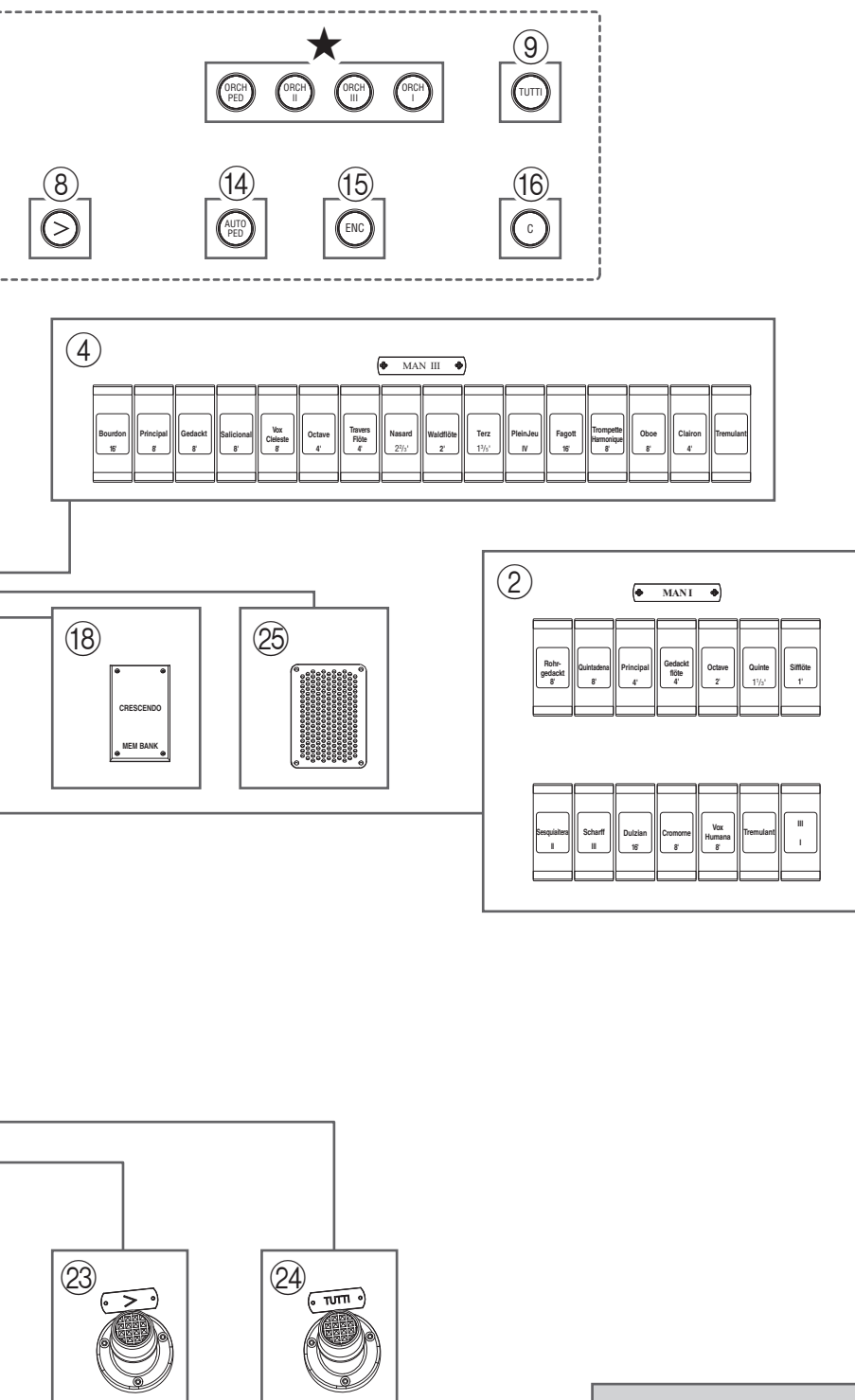
取扱説明書に関するお知らせ

- 本書のいかなる方法による無断複写・転載を禁じます。
- 本製品のすべての機能を使い、演奏をお楽しみいただくため、この取扱説明書をよく読んでご活用ください。
- この取扱説明書は大切に保存してください。
- 仕様、付属品および外観について、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。実際の仕様と異なる場合があります。
- 本書では各部(ノブ、ボタン、端子など)の名称を[]で囲んで表示します。例えば、[MENU/ENTER]はMENU/ENTER ボタンのことを意味します。
- この取扱説明書では、本書制作時のオペレーティングシステムバージョンにおける操作方法を説明しています。
- 各機能の詳細については、リファレンスマニュアルをご覧ください。リファレンスマニュアルは以下のウェブサイトからダウンロードできます。
<https://www.viscountinstruments.com/products/classics/classic-organs/maestro-organs/maestro-40/>
 ※「MAESTRO」は日本国外でのシリーズ名称です。URL 最後尾の数字2桁は、ご所有の品番(40/65のいずれか)に変更して閲覧ください。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

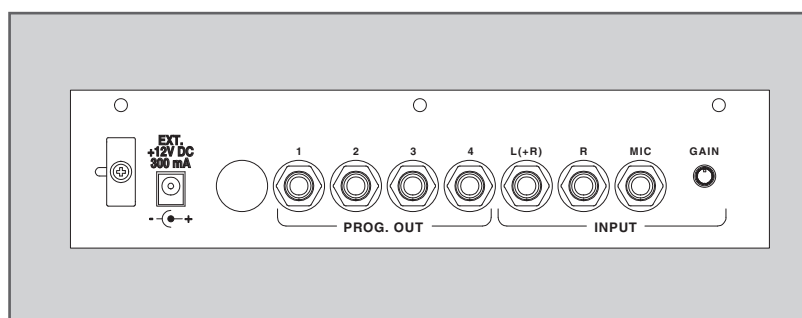
各部の名称とはたらき

Sonare 65

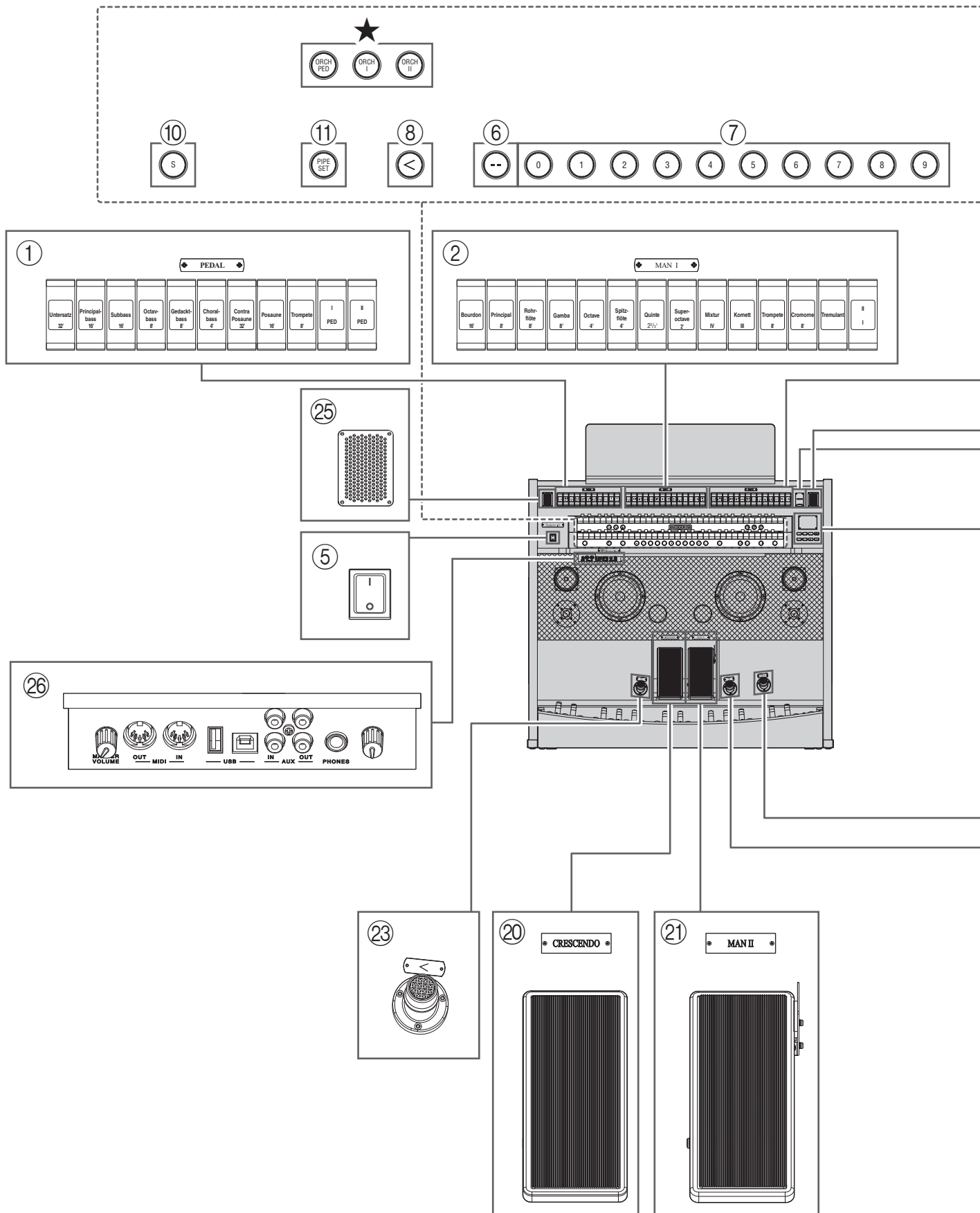


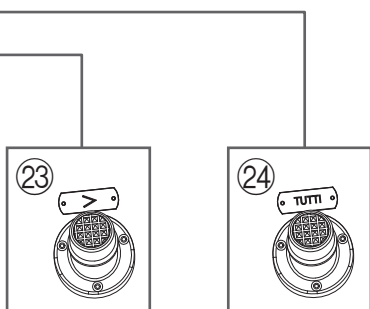
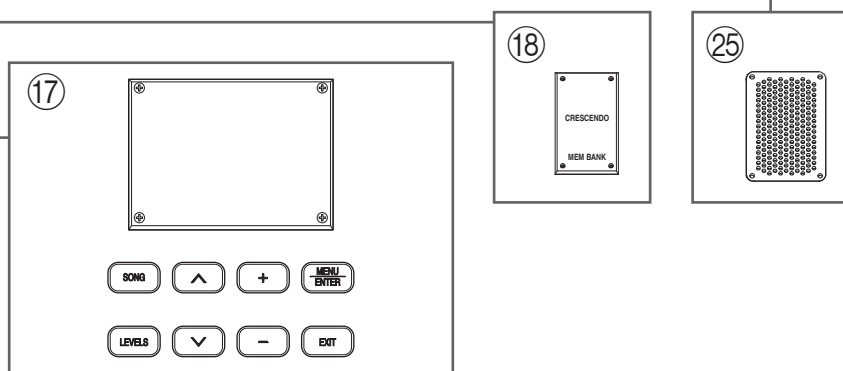
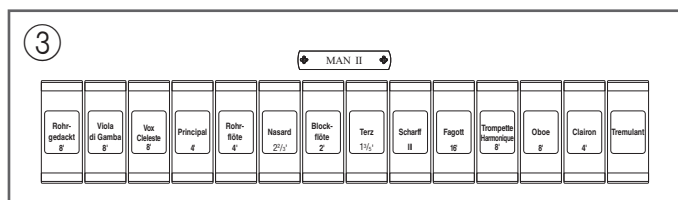
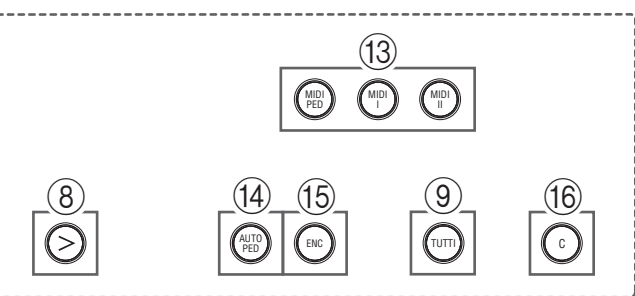


27 背面

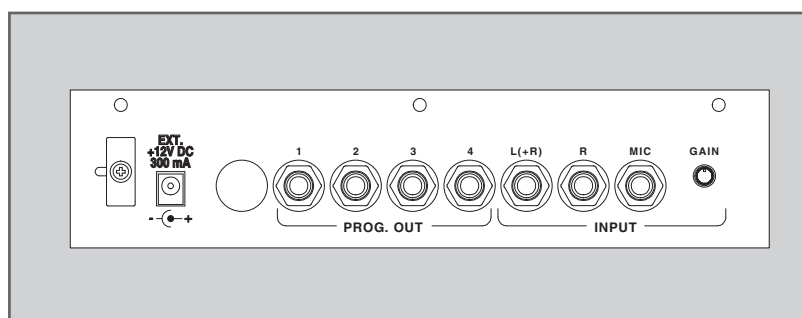


Sonare 40





27 背面



■ 鍵盤

主鍵盤:MAN I (2段鍵盤モデル)、MAN II (3段鍵盤モデル)

メモ:

- ・ 手鍵盤の位置は下から順に第 I 手鍵盤、第 II 手鍵盤、第 III 手鍵盤となります。

■ ストップ

音色を選ぶスイッチのことをストップといいます (Sonare シリーズはストップがタブレット型です。品番によりカプラーが一部ボタンと併用の場合もあります)。

① 足鍵盤 [PEDAL] セクション

足鍵盤の音色ストップと手鍵盤／足鍵盤のカプラーです。以下のカプラーが使用できます。

- ・ [I / PED]: 第 I 手鍵盤を足鍵盤へ
- ・ [II / PED]: 第 II 手鍵盤を足鍵盤へ
- ・ [III / PED]: 第 III 手鍵盤を足鍵盤へ (Sonare 65 のみ)

② 第 I 手鍵盤 [MAN I] セクション

第 I 手鍵盤の音色ストップとトレモロ、手鍵盤のカプラーです。以下のカプラーが使用できます。

- ・ [III / I]: 第 III 手鍵盤を第 I 手鍵盤へ (Sonare 65 のみ)
- ・ [II / I]: 第 II 手鍵盤を第 I 手鍵盤へ (Sonare 40 のみ)

③ 第 II 手鍵盤 [MAN II] セクション

第 II 手鍵盤の音色ストップとトレモロ、手鍵盤のカプラーです。以下のカプラーが使用できます。

- ・ [III / II]: 第 III 手鍵盤を第 II 手鍵盤へ (Sonare 65 のみ)
- ・ [I / II]: 手鍵盤を第 II 手鍵盤へ (Sonare 65 のみ)

④ 第 III 手鍵盤 [MAN III] セクション (Sonare 65 のみ)

第 III 手鍵盤の音色ストップとトレモロです。

各ストップで異なるボイス (交換ボイス) を選択できます。主要音源パラメーターの調節も可能です。

各鍵盤セクションには 2 種類のトレモロがあり、[Tremulant] ストップで作動させます。

震音効果の速さ、深さ、振幅、波形も調節でき、それを各ボイスに割り当てることができます。

また、オーケストラボイス (オルガン音色以外の音色: [Piano] [Chimes] など) は専用のボタン (★) で操作します (40 ページ参照)。

Sonare 40 の場合



Sonare 65 の場合



■ スイッチ

⑤ 電源スイッチ



本機の電源をオン / オフします。

■ ボタン類

⑥ [-] ボタン

 バンクボタンです。バンクの設定に使用します。

⑦ [0]～[9] ボタン



メモリーボタンです。選択されたメモリーバンクに保存されている音色の組み合わせ(コンビネーション)を呼び出すボタンです。メモリーバンクの選択やパイプセットの選択、新たなコンビネーションの保存設定にも使用します。これらのコンビネーションは変更できます。

⑧ [<]/[>] ボタン

  送りボタンです。別のコンビネーションを呼び出す際に押します。[<]で降順、[>]で昇順に表示されます。

メモ:

- ・オルガンに電源を入ると、メモリーバンク0番が自動選択されます。
- ・バンク0にはメモリーボタンの[0]～[9]にプリセットされたコンビネーションが登録されています。これは上書きして保存も可能ですが、初期化で元のプリセットコンビネーションに戻すことができます。
- ・Sonareシリーズには新たに選択したコンビネーションを保存する機能があるので、使用できるコンビネーション数は増えます。

⑨ [TUTTI] ボタン

 トウッティボタンです。トウッティを呼び出すためのボタンです。

⑩ [S] ボタン

 コンビネーション等を保存するためのボタンです。
それぞれの設定の際、[S] ボタンを押しながら該当するボタンを押します。

⑪ [PIPE SET] ボタン

 パイプセット(プリセットされた時代様式に合ったオルガンの構成)を選ぶボタンです。
このボタンを押してから5秒以内に点灯しているメモリーボタンの1つを押し、8種類(プリセット4種類＋ユーザー設定4種類)のパイプセットから選びます。

⑫ カプラーボタン(Sonare65のみ)

      第Ⅱ手鍵盤の下にあり、他の手鍵盤や足鍵盤へのカプラーをオン／オフします。

⑬ MIDI ボタン

    各手鍵盤および足鍵盤のMIDI ノートメッセージを[MIDI OUT]端子から出力するか、または無効にするかを設定します。

⑭ [AUTO PED] ボタン

 手鍵盤で足鍵盤の音色を演奏できる、オートマチックペダル機能を設定します。

⑮ [ENC](エンクローズド)ボタン

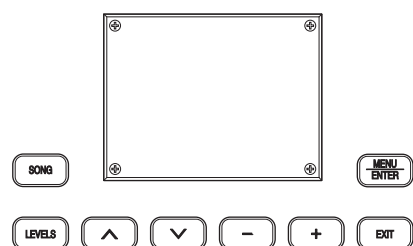
 エクスプレッションペダルを使用して全鍵盤の音量を調節する、エンクローズド機能をオン／オフします。

⑯ [C] ボタン

 キャンセルボタンです。すべてのストップ、トレモロ、カプラー、手鍵盤上のその他のボタンの設定をオフにします。

■ コントローラー／プログラミングセクション

⑪ 液晶画面セクション



このセクションのボタン類と液晶画面を使用して、さまざまな設定やプログラム組みを行います。

- ・ **[SONG]**: 録音再生機能等を使用するための画面を表示します。
- ・ **[LEVELS]**: 本機のリバーブやボリューム設定すべてを調節するための画面を表示します。
- ・ **[^]/[v]**: カーソルを移動します。カーソルを項目に合わせると文字が反転します。**[^]** ボタンはカーソルを上または前の項目に、**[v]** ボタンはカーソルを下または次の項目に移動します。
- ・ **[+]/[-]**: パラメーターの値(数字またはアルファベット)を調節するボタンです。**[+]** ボタンで値が増加し、**[-]** ボタンで値が減少します。
- ・ **[EXIT]/[MENU/ENTER]**: ディスプレイの画面やメニューにアクセスしたり終了したりするボタンです。システムのメッセージを確認またはキャンセルするときにも使用します。メニューや画面にアクセスまたは確認する場合は **[MENU/ENTER]** ボタンを、メニューや画面を終了またはキャンセルする場合は **[EXIT]** ボタンを押します。どのメニューが表示されていても、このボタンを長押ししたままにすると、メイン画面がすぐに表示されます。

⑫ その他のディスプレイ

クレッシェンドペダルの踏み込み段階、メモリーバンクを表示します。



⑬ ロールスライドカバーロック (Sonare 65のみ)

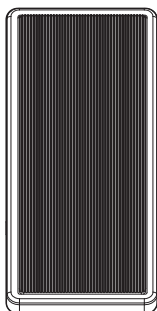


■ ペダルとフットピストン

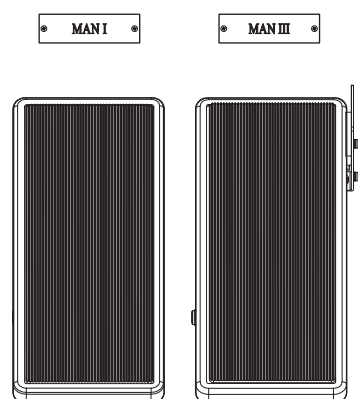
⑭ クレッシェンドペダル



このペダルを踏み込むと、デフォルトでは 14 または 16 段階で選択されたストップの音色が加算されて大きな音量になります。現在選択されている段階は、メイン画面の「CRESC」の箇所に表示されます。

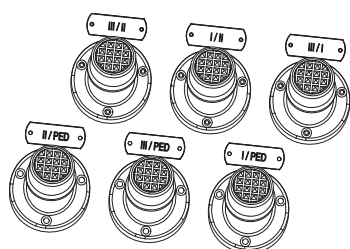


②① エクスプレッションペダル



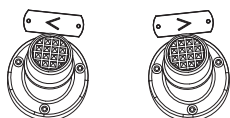
鍵盤セクションの音量をコントロールするペダルです。ペダルの1つにはオーケストラボイスのサステイン効果を調節するためのレバーシステムが組み込まれています。

②② カブラー用足ピストン(Sonare 65のみ)



カブラーフットピストンです。カブラー設定のストップと同じ機能です。

②③ [<]/[>]ピストン



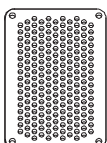
送りフットピストンです。送りボタンと同じ機能です。

②④ [TUTTI]ピストン



トゥッツィフットピストンです。トゥッツィボタンと同じ機能です。

②⑤ フロントサラウンドスピーカー



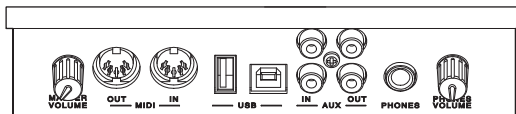
フロントにあるサラウンドシステムのスピーカーです。音がより自然になり、パイプオルガンサウンドのダイナミックな展開が強調されます。

メモ:

- 両側面にもサラウンドシステムのスピーカーがあります。

■ 接続パネル

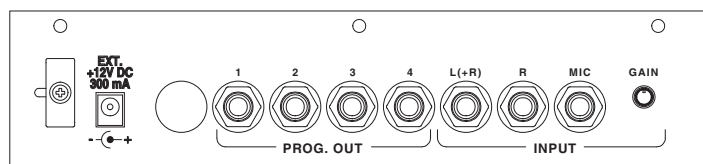
②6 フロント接続パネル



手鍵盤の左下にあるパネルには、外部接続端子や調節つまみがあります。

- ・ **[MASTER VOLUME]** : 主音量を調節します。
- ・ **[MIDI IN]** : MIDI入力端子です。
- ・ **[MIDI OUT]** : MIDI出力端子です。
- ・ **[USB]** : 2 つの USB 端子を装備しています。右の端子をコンピューターに接続すれば、Windows、Mac OS、iOS 対応の「Physis Plus The Editor」アプリケーションが使用できます。左の端子はUSBメモリー（本機に付属していません）専用で、設定ファイルや、本機で録音したソングの保存、ロードをするための端子です。
- ・ **[AUX IN]** : 本機内蔵アンプや外付けアンプを使って他の楽器を演奏するためのRCAライン入力端子です。
- ・ **[AUX OUT]** : 増幅されてない信号を出力するRCAライン出力端子です。別売のパワースピーカー、リモートアンプシステム、レコーディングシステムなどを接続します。
- ・ **[PHONES]** : ヘッドホンに接続します。
- ・ **[PHONES VOLUME]** : [PHONES]端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

②7 リア接続パネル



オルガンの背面には外部スピーカーシステムに接続するための端子や、ライン入力、マイク入力が装備されています。

- ・ **[EXT. +12V DC]** : [PROG. OUT] 端子に接続されたバイカウント製スピーカーに、+ 12Vの電源を供給する端子です。
- ・ **[PROG. OUT]** : オルガンからの一般ライン出力端子です。外部スピーカーを接続してオルガン音を出すには別途設定が必要です。
- ・ **[INPUT L(+R)/R]** : 本機内蔵アンプや外付けアンプを使って他の楽器を演奏するためのライン入力端子です。ソース音源がモノラルの場合は、[INPUT L(+R)]端子のみを使用してください。
- ・ **[INPUT MIC]** : マイク入力端子です。マイクから入力された信号は内蔵アンプを使用して出力されます。
- ・ **[INPUT GAIN]** : [MIC]端子から入力された信号のゲインを調節します。

メモ：

- ・ 外部スピーカーは「標準モノラルプラグ」のシールドケーブルを使用して、[PROG. OUT] 端子に接続してください。出力端子接続側がL字になっているタイプを推奨します。

注意！

- ・ オルガンの背面にあるこれらの端子は外からは見えません。使用するためには背面の木製パネルを取り外す必要があります。専門のスタッフにご相談ください。

はじめに

電源を入れる

電源ボタンを押します。

本機に電源を入れると液晶画面にPhysis Plusのロゴが表示され、作動可能になるとメイン画面が表示されます。

PIPE SET	CMB 1	TRANSP
Modern	0 -	--
TEMPERAMENT	CRESC	EXPRES
EQUAL	-	II
PITCH		
440.00 Hz		

メイン画面 (Sonare 40)

PIPE SET	CMB 1	TRANSP
Modern	0 -	--
TEMPERAMENT	CRESC	EXPRES
EQUAL	-	I III
PITCH	-	
440.00 Hz		

メイン画面 (Sonare 65)

※品番、バージョンにより画面表示が一部異なる場合があります。

メイン画面について

メイン画面には次の項目があります。

項目	内容
PIPE SET	現在設定されているパイプセットです。
CMB	選択されているコンビネーションです。最初の 2 つの数字はバンク番号、3 つ目の数字（反転表示中）はメモリー番号を示しています。選択されたコンビネーションスロット（CMB）の番号は「CMB」の横に表示されています。
TRANSP	TUNING メニューで設定したトランスポジション（移調）を表示します。
TEMPERAMENT	TUNING メニューで選択した現在使用中のテンペラメント（音律）を表示します。
PITCH	TUNING メニューで設定した本機のチューニングを A4 の周波数で表示します。
CRESC	現在使用中のクレッシェンドの段階を表示します。
EXPRES	エクスプレッションペダルの位置に対応したエクスプレッションの段階を表示します。

メイン画面ではこれらの項目のパラメーターを調節できます。

[▲]/[▼]ボタンで調節したい項目を選びます。

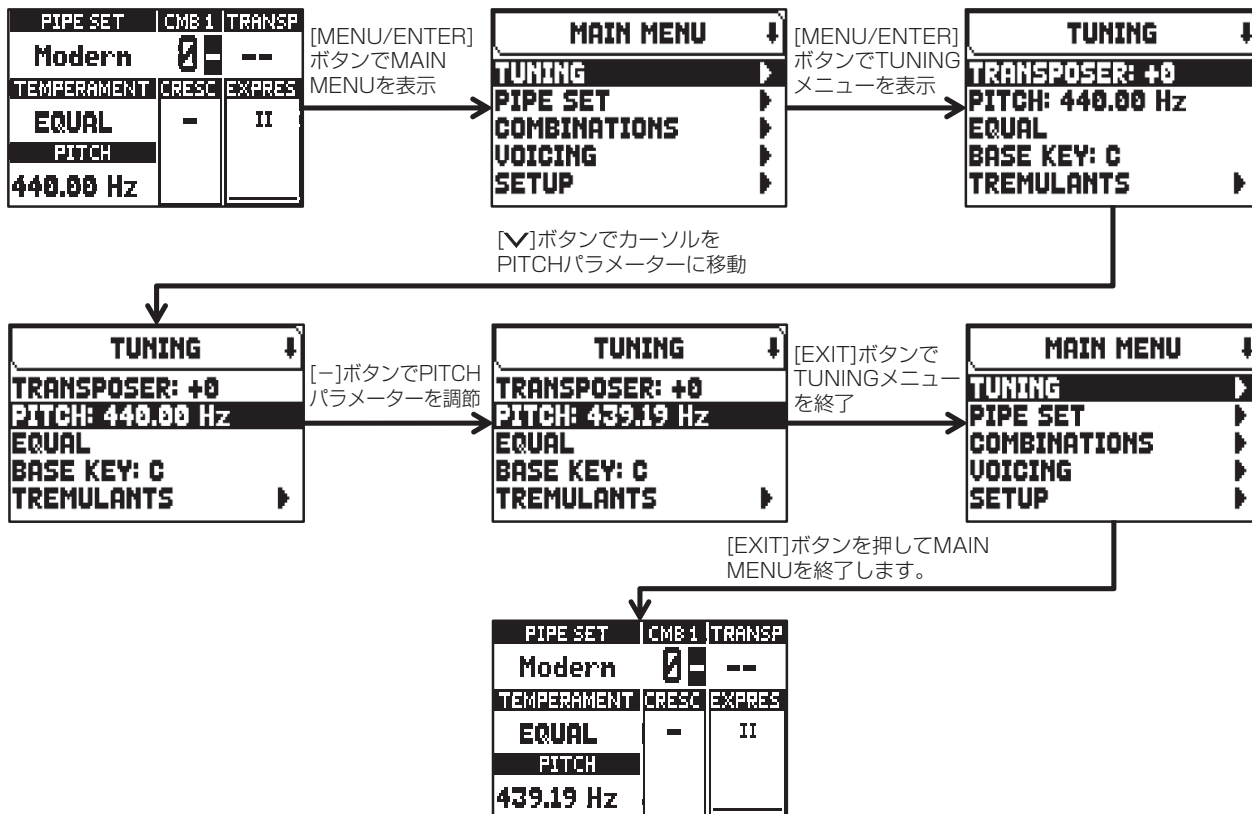
選んだ項目のパラメーターには+/-の記号が表示されますので、[+]/[-]ボタンで調節します。

リバーブのレベルの調節や、パラメーター調節を制限することも、[▲]/[▼]ボタンで選ぶことができます（ポップアップメッセージで表示されます）。

メニューの操作方法

ここでは各画面を表示し、パラメーターを調節してメイン画面に戻る方法を簡単に説明します。この手順にしたがえば、本取扱説明書に記載されているすべてのパラメーターにアクセスできます。

例: 基準ピッチを439.19 Hzに変更したい場合



パイプセットを選んで演奏する

パイプセットとは、プリセットされたバイカウント社おおすすめの時代様式に合ったオルガンの構成(音色、チューニングその他)を、簡単に呼び出せる便利な機能です。

Sonareシリーズでは4タイプのパイプセット(「モダン」「バロック」「ロマンティック」「シンフォニック」)が内蔵されています。

例えば「バロック」を選択すると、バロックの時代様式の演奏にバイカウント社がもっともおおすすめの音色やチューニングされた状態で演奏できます。

追加で4種類を自分でお好みの内容に設定し、保存することもできます。

メモ:

- 工場出荷時は「モダン」がデフォルトで設定されています。

パイプセットには以下の設定が含まれています。

設定	設定画面 (メニュー)
音色ストップ	VOICING
音色設定	VOICING
各鍵盤セクションの音量	LEVELS
オーケストラボイスの音量	LEVELS
チューニング (移調設定以外)	TUNING
トレモロ	TUNING > TREMULANTS
ペロシティ	SETUP > KEYBOARDS > VELOCITY
トラッカータッチ	SETUP > KEYBOARDS > TRK TOUCH
トラッカーノイズ	SETUP > KEYBOARDS > TRK NOISE
鍵盤反転機能	SETUP > KEYBOARDS > INVERSION
ショートオクターブ	SETUP > KEYBOARDS > 1st SHORT OCTAVE
クレッシェンドペダル	SETUP > CONTROLS > CRESCENDO PEDAL
残響効果	SETUP > AUDIO > REVERBERATION

パイプセットを選ぶ

パイプセットを選ぶには、以下の2種類の手順があります。

■ [PIPE SET] ボタンで選ぶ

[PIPE SET] ボタンを押してから5秒以内に点灯しているメモリーボタンの1つを押し、8種類(プリセット4種類+ユーザー設定4種類)のパイプセットから選びます。4～7のユーザー設定4種類は、設定がなされると点灯するようになります。



メモリーボタン	パイプセット
0	モダン
1	バロック
2	ロマンティック
3	シンフォニック
4	ユーザー設定
5	ユーザー設定
6	ユーザー設定
7	ユーザー設定

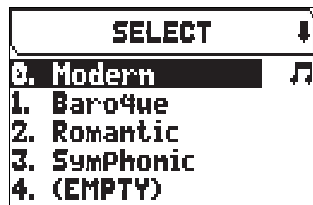
■ PIPE SET メニューで選ぶ

PIPE SETメニューを使って、パイプセットを選びます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「PIPE SET」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
PIPE SET画面が表示されます。



3. PIPE SET画面で「SELECT」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
パイプセットの一覧が表示されます。



4. [△]/[▽]ボタンでパイプセットを選びます。
選んでいるパイプセットに♪マークがつきます。
5. [MENU/ENTER] ボタンを押して、パイプセットを確定します。
設定を変更しない場合は、[EXIT] ボタンを押します。

メモ:

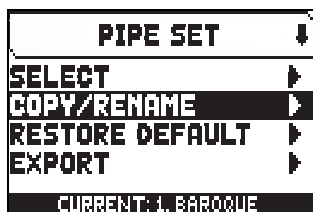
- パイプセットの設定内容は、上書きが可能ですが、初期化することでデフォルトに戻すことができます。

パイプセットをコピーする

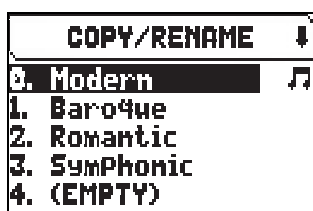
パイプセットの設定内容は変更が可能です、変更すると上書き保存されます。

初期化することでデフォルトの設定に戻りますが、パイプセットのデフォルト設定内容をコピーしておく、初期化してデフォルトの設定に戻さずに済みます。

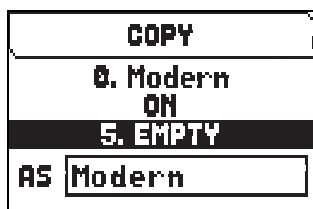
1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「PIPE SET」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
PIPE SET画面が表示されます。



3. PIPE SET画面で「COPY/RENAME」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
パイプセットの一覧が表示されます。



4. [↑]/[↓] ボタンでコピーしたいパイプセットを選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
5. [↑]/[↓] ボタンでコピー先(4～7)を選びます。



6. [↑]/[↓] ボタンと[+]/[-] ボタンを使って、コピーしたパイプセットの名前を変更します。
[↑]/[↓] ボタンでカーソルを移動し、[+]/[-] ボタンで入力する文字を選びます。
7. [MENU/ENTER] ボタンを押して、コピーを確定します。
コピーを中止する場合は、[EXIT] ボタンを押します。

基本設定を使って演奏する

音色を選ぶ

音色を選ぶスイッチを「ストップ」と呼びます。

Sonareシリーズはタブレット型ストップです。タブレット型は、タブレットの下部を押すことで音色が選ばれます。上部を押すと音色の選択が解除されます。

■ オルガンボイスを選ぶ

オルガンボイスを選ぶには、各鍵盤セクションから任意の音色のストップを押します。

■ オーケストラボイスを選ぶ

オルガン音色以外にも、ピアノやストリングスなどの音色も内蔵しており、これらを「オーケストラボイス」と呼びます。オーケストラボイスを選ぶには、オーケストラボイス専用ボタンを押します。(40ページ参照)

メモ:

- 各音色をお好みに合わせて調節できます。

音量を調節する

■ [MASTER VOLUME] つまみで全体の音量を調節する

手鍵盤の下にある [MASTER VOLUME] つまみで、オルガン全体の音量を調整します。



右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

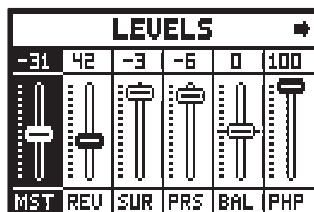
メモ:

- ヘッドフォン使用時に [MASTER VOLUME] つまみで音量を変更しても、ヘッドフォンの音量に反映されません。

■ 液晶画面で全体の音量を調節する

液晶画面左下の [LEVELS] ボタンを押すと表示される調整画面で、音量を調節します。

1. [LEVELS] ボタンを押します。
LEVELS画面が表示されます。



2. LEVELS画面で「MST」を選び、[+]/[-]ボタンで音量を調節します。

- 調節が終わったら[EXIT]ボタンを押します。

メモ:

- 外部出力や各鍵盤ごとの音量を調節することもできます。

■ ヘッドフォンの音量を調節する

手鍵盤の下にある[PHONES VOLUME]つまみで、ヘッドフォンの音量を調整します。



右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

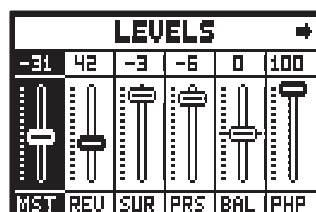
残響（リバーブ）を設定する

内蔵アンプでの残響効果を設定します。

■ 残響効果のレベルを調節する

液晶画面左下の[LEVELS]ボタンを押すと表示される調整画面で、残響効果のレベルを調節します。

- [LEVELS]ボタンを押します。
LEVELS画面が表示されます。



- LEVELS画面で「REV」を選び、[+]/[-]ボタンで残響効果のレベルを調節します。
- 調節が終わったら[EXIT]ボタンを押します。

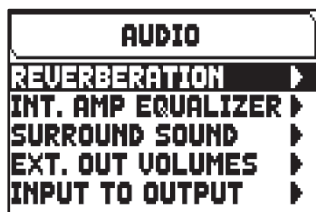
メモ:

- メイン画面上で[+]/[-]ボタンを使って調節することもできます。

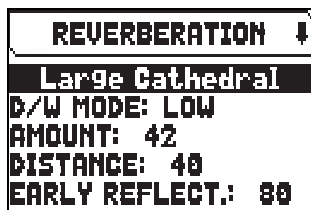
■ 残響（リバーブ）タイプを設定する

残響タイプは、SETUPメニュー内のAUDIOメニューで設定できます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SETUP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SETUP画面が表示されます。
3. SETUP画面で「AUDIO」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
AUDIO画面が表示されます。



4. AUDIO画面で「REVERBERATION」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
REVERBERATION画面が表示されます。



5. REVERBERATION画面で上から1つ目の項目（上図では「Large Cathedral」と表示されている部分）を選び、[+]/[-]ボタンで残響タイプを選びます。
残響タイプは以下です。上から順に残響効果が高いタイプになっています。

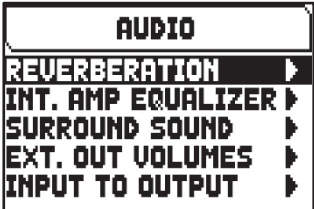
タイプ
Large Cathedral
Medium Cathedral
Basilica
Stone Church
Large Chapel
Auditorium
Medium Church
Small Church
Modern Church
Cantoria
Wood Church
Small Chapel
Conservatory
Trio Sonate
Studio
Consort

6. 設定が終わったら[EXIT] ボタンを押します。

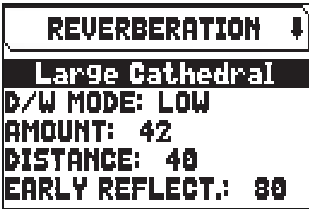
■ 残響効果のレベルと質を調節する

残響効果は、SETUPメニュー内のAUDIOメニューで調節できます。

- 1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
- 2. MAIN MENU画面で「SETUP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SETUP画面が表示されます。
- 3. SETUP画面で「AUDIO」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
AUDIO画面が表示されます。



- 4. AUDIO画面で「REVERBERATION」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
REVERBERATION画面が表示されます。



- 5. 調整したい項目を選び、[+]/[-] ボタンで値を調節します。

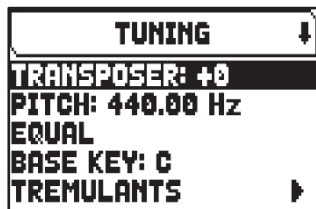
項目	内容
D/W MODE	残響のかかり具合を設定します。 もっともウェットな残響からドライな残響まで、FULL（ウェット）→ HIGH → LOW → OFF（ドライ） の順で選択可能です。
AMOUNT	残響のレベルを調節します。 調節範囲：0 ～ 100
DISTANCE	音と聴取者との距離感を調節します。 調節範囲：0 ～ 100
EARLY REFLECT	初期反射音のレベルを調節します。 調節範囲：0 ～ 100
DIFFUSION	残響の拡散度合いを調節します。 調節範囲：0 ～ 100

- 6. 調節が終わったら [EXIT] ボタンを押します。

移調を設定する

本機全体を半音単位で移調します。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「TUNING」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
TUNING画面が表示されます。



3. TUNING画面で「TRANPOSER」を選び、[+]/[-]ボタンで移調を設定します。
-6～+5の範囲で、半音ごとに設定できます。
4. 設定が終わったら[EXIT]ボタンを押します。

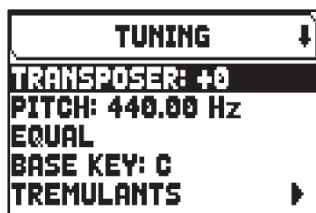
メモ:

- ・ 本機の電源を入れたとき、移調設定は常に0に戻ります。
- ・ メイン画面上で[+]/[-]ボタンを使って設定することもできます。

ピッチを調節する

全体のピッチの微調節をします。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「TUNING」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
TUNING画面が表示されます。



3. TUNING画面で「PITCH」を選び、[+]/[-]ボタンでピッチを調節します。
415.3 Hz(-100 セント)～466.16 Hz(+100 セント)の範囲で、調節できます。
4. 調節が終わったら[EXIT]ボタンを押します。

メモ:

- ・ 工場出荷時は「440.00 Hz」に設定されています。
- ・ メイン画面上で[+]/[-]ボタンを使って調節することもできます。

調律の種類を選ぶ

さまざまな時代や地域の歴史的なテンペラメント(古典調律法)を設定できます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「TUNING」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
TUNING画面が表示されます。



3. TUNING画面で上から3つ目の項目(上図では「EQUAL」と表示されている部分)を選び、[+]/[-] ボタンで調律の種類を選びます。
調律の種類は以下です。

EQUAL (平均律)	MEANTONE 3 ♭ (ミーントーン 3 ♭)
KIRNBERGER II (キルンベルガーⅡ)	MEANTONE PUREM3RD (純正短三度)
WERCKMEISTER III (ヴェルクマイスターⅢ)	ZARLINO (ツァルリーノ)
PYTHAGOREAN (ピタゴラス)	SAUVER 1 (ソーヴァール 1)
MEANTONE 3 # (ミーントーン 3 #)	SAUVER 2 (ソーヴァール 2)
VALLOTTI (ヴァロッティ)	BARCA (バルサ)
CHAUMONT (ショーモン)	NEIDHARDT II (ナイトハルトⅡ)
KELLNER 1975 (ケルナー 1975)	CUSTOM 1 (カスタム 1)
KIRNBERGER III (キルンベルガーⅢ)	CUSTOM 2 (カスタム 2)
WERCKMEISTER IV (ヴェルクマイスターⅣ)	CUSTOM 3 (カスタム 3)
WERCKMEISTER V (ヴェルクマイスターⅤ)	CUSTOM 4 (カスタム 4)
SILBERMANN (シルバーマン)	

4. 設定が終わったら[EXIT] ボタンを押します。

メモ:

- 工場出荷時は「EQUAL」に設定されています。
- メイン画面上で[+]/[-] ボタンを使って選ぶこともできます。
- カスタムテンペラメントはプログラムができます(次ページ参照)。

■ カスタムテンペラメントを設定する

歴史的なテンペラメント(古典調律法)に加え、オクターブの各音を平均律に対してピッチをずらすことで、4種類までのカスタムテンペラメントを設定できます。

1. 4つのカスタムテンペラメントのうち1つを選んだ状態で[MENU/ENTER]ボタンを押します。
画面にオクターブの12音が表示されます。

CUSTOM 1 (cents)			
C	0.0	F#	0.0
C#	0.0	G	0.0
D	0.0	G#	0.0
D#	0.0	A	0.0
E	0.0	A#	0.0
F	0.0	B	0.0

2. 調節したいオクターブ音を選び、[+]/[-]ボタンでピッチを調節します。
-50~+50セント(半音)の範囲で、0.1セントごとに調節できます。
3. 設定が終わったら[EXIT]ボタンを押します。
設定が選んでいるカスタムテンペラメントに保存され、TUNING画面に戻ります。

ペダルを使う

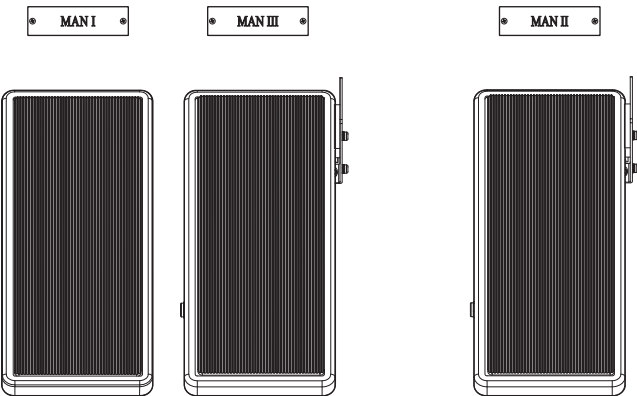
本機には2種類のペダルが搭載されており、これらを使って豊かな演奏が可能です。

■ エクスプレッションペダルを使う

3つのペダルが搭載されているモデルでは右側2つ、2つのペダルが搭載されているモデルでは一番右側がエクスプレッションペダルです。

エクスプレッションペダルは1つまたは複数の鍵盤セクションの音量を常にコントロールし、種々のダイナミックな効果を生むために使用されます。

また、ペダルの1つにはオーケストラボイスのサステイン効果を調節するためのレバーシステムが組み込まれています。



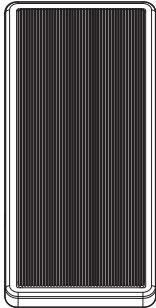
ペダル数はモデルと手鍵盤の段数により異なります。

ペダル	機能	Sonare 65	Sonare 40
MAN I	第Ⅰ手鍵盤の音量を連続的に調節します。	●	
MAN II	第Ⅱ手鍵盤の音量を連続的に調節します。		●
MAN III	第Ⅲ手鍵盤の音量を連続的に調節します。	●	

■ クレッシェンドペダルを使う

足元左側のペダルを踏み込むと、14または16段階で選択したストップが加算されて大きな音量になります。

◉ CRESCENDO ◉



現在選択されている段階は、メイン画面の「CRESC」に表示されます。

■ クレッシェンドペダルの動作モードを設定する

クレッシェンドペダルの動作モードは、SETUPメニュー内のCONTROLSメニューで設定できます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SETUP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SETUP画面が表示されます。
3. SETUP画面で「CONTROLS」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
CONTROLS画面が表示されます。



4. CONTROLS画面で[▲]/[▼]ボタンを使って「CRESCENDO PEDAL」を選びます。
5. [+]/[-]ボタンで動作モードを選びます。

動作モード	内容
ON	クレッシェンドペダルの機能を有効にします。
OFF	クレッシェンドペダルの機能を無効にします。
I /PD SHOE (2 段鍵盤モデルのみ)	第Ⅰ手鍵盤と足鍵盤に有効なエクスプレッションペダルとして動作します。
Ⅱ /PD SHOE (3 段鍵盤モデルのみ)	第Ⅱ手鍵盤と足鍵盤に有効なエクスプレッションペダルとして動作します。

6. 設定が終わったら[EXIT]ボタンを押します。

便利な機能

オートマチックペダル機能

足鍵盤を弾かずに、足鍵盤の音色を手鍵盤で出すことができます。デフォルトでは、主鍵盤に足鍵盤の音を被せることができます（演奏中の最低音のみ）。

[AUTO PED] ボタンでこの機能をオン／オフします。



オートマチックペダル機能の動作モードは、SETUPメニュー内のKEYBOARDSメニューで設定できます（下記参照）。

■ オートマチックペダル機能の動作モードを設定する

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SETUP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SETUP画面が表示されます。
3. SETUP画面で「KEYBOARDS」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
KEYBOARDS画面が表示されます。



4. KEYBOARDS画面で「A.P.MODE」を選び、[+]/[-] ボタンで動作モードを選びます。
動作モードは以下です。

動作モード	内容
PD/ I Mono	足鍵盤の音色を第Ⅰ手鍵盤で演奏します。足鍵盤から音が出なくなり、手鍵盤で最も低い音符を発音します（モノフォニーで発音します）。
PD/ II Mono	足鍵盤の音色を第Ⅱ手鍵盤で演奏します。足鍵盤から音が出なくなり、手鍵盤で最も低い音符を発音します（モノフォニーで発音します）。
PD/ III Mono	足鍵盤の音色を第Ⅲ手鍵盤で演奏します。足鍵盤から音が出なくなり、手鍵盤で最も低い音符を発音します（モノフォニーで発音します）。
PD/KB Mono	足鍵盤の音色をすべての手鍵盤で演奏します。足鍵盤から音が出なくなり、手鍵盤で最も低い音符を発音します（モノフォニーで発音します）。
PD.A.Piano	演奏されている手鍵盤の音色に従って、足鍵盤で出す音色の構成を自動的に調節します。
PD./KB+PAP	足鍵盤の音色をすべての手鍵盤で演奏します。演奏されている手鍵盤の音色に従って足鍵盤で出す音色の構成を自動的に調整します。足鍵盤から音が出なくなり、手鍵盤で最も低い音符を発音します（モノフォニーで発音します）。

5. 設定が終わったら[EXIT] ボタンを押します。

エンクローズド機能

エクスプレッションペダルを使用して全体の音量を調節できます。

[ENC]ボタンでこの機能をオン／オフします。



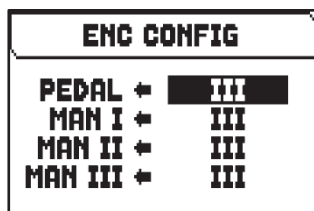
エンクローズド機能の動作モードは、SETUPメニュー内のCONTROLSメニューで設定できます(下記参照)。

■ エンクローズド機能の動作モードを設定する

1. [MENU/ENTER]ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SETUP」を選び、[MENU/ENTER]ボタンを押します。
SETUP画面が表示されます。
3. SETUP画面で「CONTROLS」を選び、[MENU/ENTER]ボタンを押します。
CONTROLS画面が表示されます。



4. CONTROLS画面で「ENC CONFIG」を選び、[MENU/ENTER]ボタンを押します。
ENC CONFIG画面が表示されます。



左側に鍵盤セクション、右側に音量調節に使用するエクスプレッションペダルが表示されます。

5. 各鍵盤セクションごとに、[+]/[-]ボタンでどのエクスプレッションペダルを使用するか選びます。
6. 設定が終わったら[EXIT]ボタンを押します。

キャンセル機能

[C]ボタンを押すと、すべてのストップ、トレモロ、カブラー、手鍵盤上のその他のボタンをオフにします。



トゥッティ機能

[TUTTI]ボタンを押すと、バイカウント社が定めた最大音色が一度に選択されます。



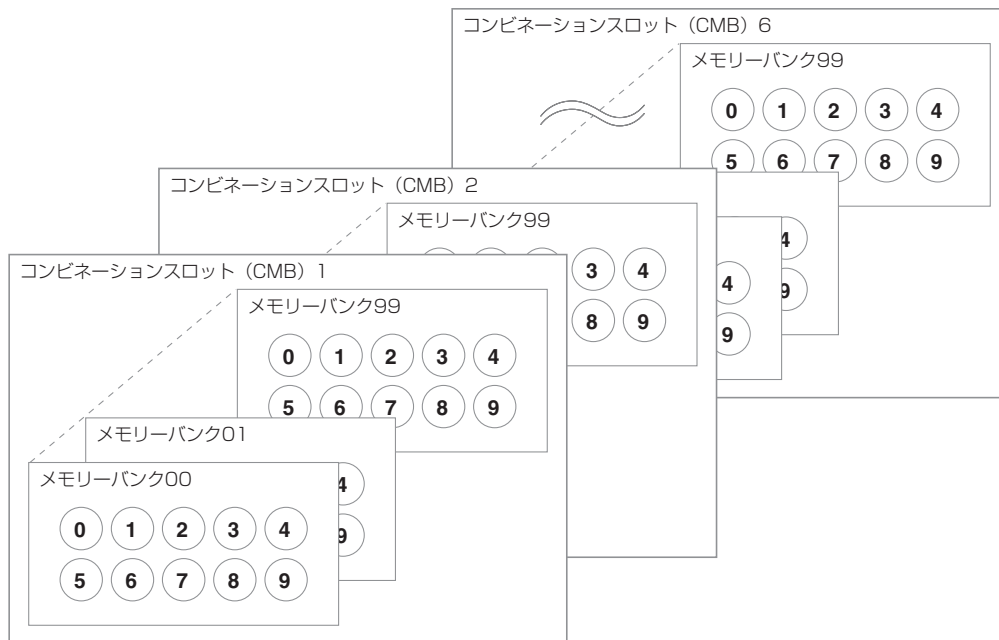
音色メモリーを使う

本機では、6000通りの音色をメモリーに保存可能です。

コンビネーションスロット (CMB) について

コンビネーションスロット(CMB)は、100個のメモリーバンクから構成されています。1つのメモリーバンクには、10個のコンビネーションを保存できます。

本機では、6つのコンビネーションスロット(CMB)を切り替えて使用することができます。



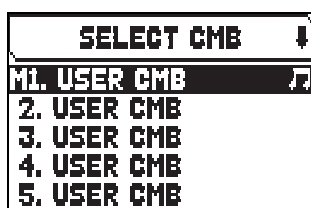
■ コンビネーションスロット (CMB) を切り替える

コンビネーションスロット(CMB)は、COMBINATIONSメニューで切り替えられます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「COMBINATIONS」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
COMBINATIONS画面が表示されます。



3. COMBINATIONS画面で「SELECT」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
コンビネーションスロット(CMB)が表示されます。



4. [^]/[V]ボタンで使用したいコンビネーションスロット(CMB)を選びます。
選んでいるコンビネーションスロット(CMB)に♪マークがつきます。
5. [MENU/ENTER]ボタンを押して、コンビネーションスロット(CMB)を確定します。
設定を変更しない場合は、[EXIT]ボタンを押します。

コンビネーションをメモリーに保存する

お好みの音色の組み合わせ(コンビネーション)をメモリーバンクに保存します。

1. 必要な音色のストップを選びます。
2. 保存するメモリーバンクのバンク番号を選びます。[- -]ボタンを押しながら、[0]～[9]ボタンから2つのボタンを押します。



例：バンク番号 2 を選ぶ場合



例：バンク番号 10 を選ぶ場合

3. 保存するメモリーバンクのメモリー番号を選びます。[S]ボタンを押しながら、[0]～[9]ボタンから 1 つのボタンを押します。



例：メモリー番号 5 を選ぶ場合

メモ：

- ・ バンク0のメモリー0～9にはプリセットされたコンビネーションが入っていますので、バンク1～99を使用することをおすすめします。
- ・ すでに保存したコンビネーションには上書きしないため、先にバンク番号とメモリー番号を選び、保存済のコンビネーションが保存されていないことを確認してから、手順1でストップを選び、Sボタンを押しながら選択したメモリーボタン番号を押して保存をしても構いません。

保存したコンビネーションを呼び出す

メモリーに保存したコンビネーションを呼び出します。

1. [- -]ボタンを押しながら、2つのバンク番号を押し、保存したバンクを呼び出します。
2. [0]～[9]ボタンから、呼び出したいメモリー番号のボタンを押します。



例：バンク 2 / メモリー 1 のコンビネーション
を呼び出す場合



例：バンク 10 / メモリー 5 のコンビネーション
を呼び出す場合

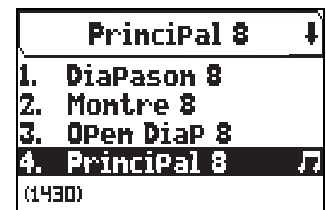
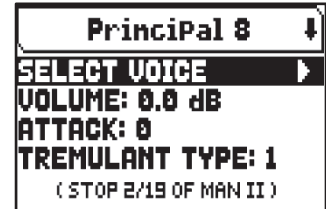
交換ボイスを使う

ストップに記載されている音色以外の本体内蔵音色を呼び出して使いたい場合は、交換ボイスを使用します。

オルガンボイスを交換する

VOICINGメニューを使って、オルガンボイスを交換できます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「VOICING」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
3. 交換したいストップを2～3秒長押しします。
押したストップのインジケーターが点滅し、音色が画面に表示されます。
4. 「SELECT VOICE」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
交換できるボイスが表示されます。
5. [△]/[▽] ボタンで交換したいボイスを選びます。
選んでいるボイスに♪マークがつき、どんな音が弾いて確認できます。
6. [MENU/ENTER] ボタンを押して、新しいボイスを確定します。
設定を変更しない場合は、[EXIT] ボタンを押します。



メモ:

- ・ 同じ名称のボイスであっても、番号が異なれば音色も異なります。
- ・ 選択中のパイプセット内でのボイス設定も紐づいて変わります。ただし、別のパイプセットを選択するとリセットされます。

オーケストラボイスを交換する

オーケストラボイス専用ボタンがあります。

3段鍵盤の場合は4つ、2段鍵盤の場合は3つの専用ボタンがあります。

Sonare 40 の例（専用ボタン）：

【デフォルトの設定】 ORCH PED : Cello、ORCH I : Harp、ORCH II : Chimes



別のオーケストラボイスを使いたいときは、それぞれのオーケストラボイスボタンを長押しすると点滅し、液晶画面にデフォルトのオーケストラボイスが表示されます。

例えば、[ORCH I] ボタンを長押しした場合、液晶画面には「Harp」と表示されます。

[+]/[-] ボタンで交換ボイスを選び、[EXIT] ボタンを押すと設定されます。

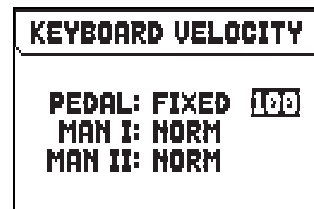
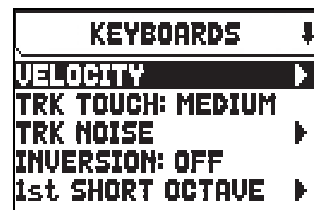
メモ:

- ・ オーケストラボイスの交換ボイスは、個々の専用ストップ・ボタンから内蔵されている全てのオーケストラボイスに交換ができます(バージョン1.4以上)。

ベロシティを設定する

手鍵盤と足鍵盤を押したときのオーケストラボイスのベロシティ（強弱）を設定できます。
オーケストラボイスを使う際に便利な機能です。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SET UP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SET UP画面が表示されます。
3. SET UP画面で「KEYBOARDS」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
KEYBOARDS画面が表示されます。
4. KEYBOARDS画面で「VELOCITY」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
KEYBOARD VELOCITY画面が表示されます。
5. [^]/[✓] ボタンで設定したい鍵盤を選びます。
6. [+]/[-] ボタンでベロシティを設定します。
7. [MENU/ENTER] ボタンを押して、設定を確定します。
設定を変更しない場合は、[EXIT] ボタンを押します。



鍵盤	内容
PEDAL	設定：FIXED（弱：1～強：127）
MAN I / II / III	SOFT：ベロシティが出やすい NORMAL：最も一般的（デフォルト設定） HARD：ベロシティが出にくい FIXED：弾く強さにかかわらず一定のベロシティ

サラウンドシステムを調節する

サラウンドシステムの効果を、お好みに応じて調節することができます。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SETUP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SETUP画面が表示されます。
3. SETUP画面で「AUDIO」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
AUDIO画面が表示されます。
4. AUDIO画面で「SURROUND SOUND」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SURROUND SOUND画面が表示されます。
5. 調整したい項目を選び、[+]/[-] ボタンで値を調節します。

AUDIO	
REVERBERATION	▶
INT. AMP EQUALIZER	▶
SURROUND SOUND	▶
EXT. OUT VOLUMES	▶
INPUT TO OUTPUT	▶

SURROUND SOUND	
SURROUND VOL:	-3 dB
SURROUND BAL:	0
PRESENCE VOL:	-6 dB

項目	内容
SURROUND VOL	サイドスピーカーの音量調節：音が広がり、より広い環境にいるような感覚が得られます。 調節範囲：0 ～ -59 dB、OFF
SURROUND BAL	サイドスピーカーのステレオバランスを調節します。 調節範囲：L63 ～ R63
PRESENCE VOL	フロントサイドスピーカーの音量調節：音がより自然になり、パイプオルガンサウンドのダイナミックな展開が強調されます。 調節範囲：0 ～ -59 dB、OFF

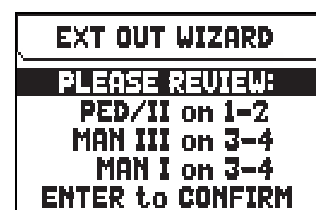
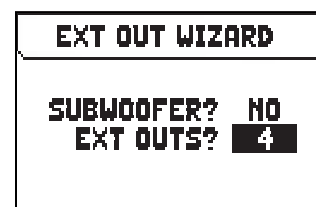
メモ：

- 工場出荷時は下記の設定となっております。
 - SURROUND VOL：-3 dB
 - SURROUND BAL：0
 - PRESENCE VOL：-6 dB

リア接続パネルの [PROG. OUT] 端子を設定する

リア接続パネルの[PROG.OUT]端子を使って外部スピーカー等からオルガン音を出す際には、事前にこちらの設定が必要となります(バージョン1.4以上で設定可能です)。

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「SET UP」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
SET UP画面が表示されます。
3. SET UP画面で「AUDIO」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
AUDIO画面が表示されます。
4. AUDIO画面で「EXT OUT WIZARD」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
EXT OUT WIZARD画面が表示されます。
5. まず[PROG. OUT 1]端子からの出力を自動的にサブウーハー・スピーカー用に設定したいかどうかを選択します。
設定したい場合は「SUBWOOFER?」の横の「NO」を[+]/[-]ボタンで「YES」に設定します。
この場合、残りの3端子で一般的なオルガン音を出すことになります。
設定しない場合は「NO」のまま、[✓]ボタンを押します。
6. 「EXT OUT?」で接続するスピーカーの台数を[+]/[-]ボタンで設定します。
スピーカーを2台接続する場合は「2」を選択、4台接続する場合は「4」を選択し、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
7. どの端子からどの箇所のオルガン音が出るのかが表示されます。
この内容は変更できません。
[✓]ボタンで「ENTER to CONFIRM」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押して、各出力端子から出る音の箇所を確定します。
8. 「SETTING WHOLE EXTERNAL OUTS CONFIGURATION,ARE YOU SURE?」と表示されたら、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
「DONE」の表示が消えたら設定完了です。



リア接続パネルの[PROG.OUT]端子の設定は以下の3種類になります。
スピーカー2台を接続する場合は、1の設定を行ってください。

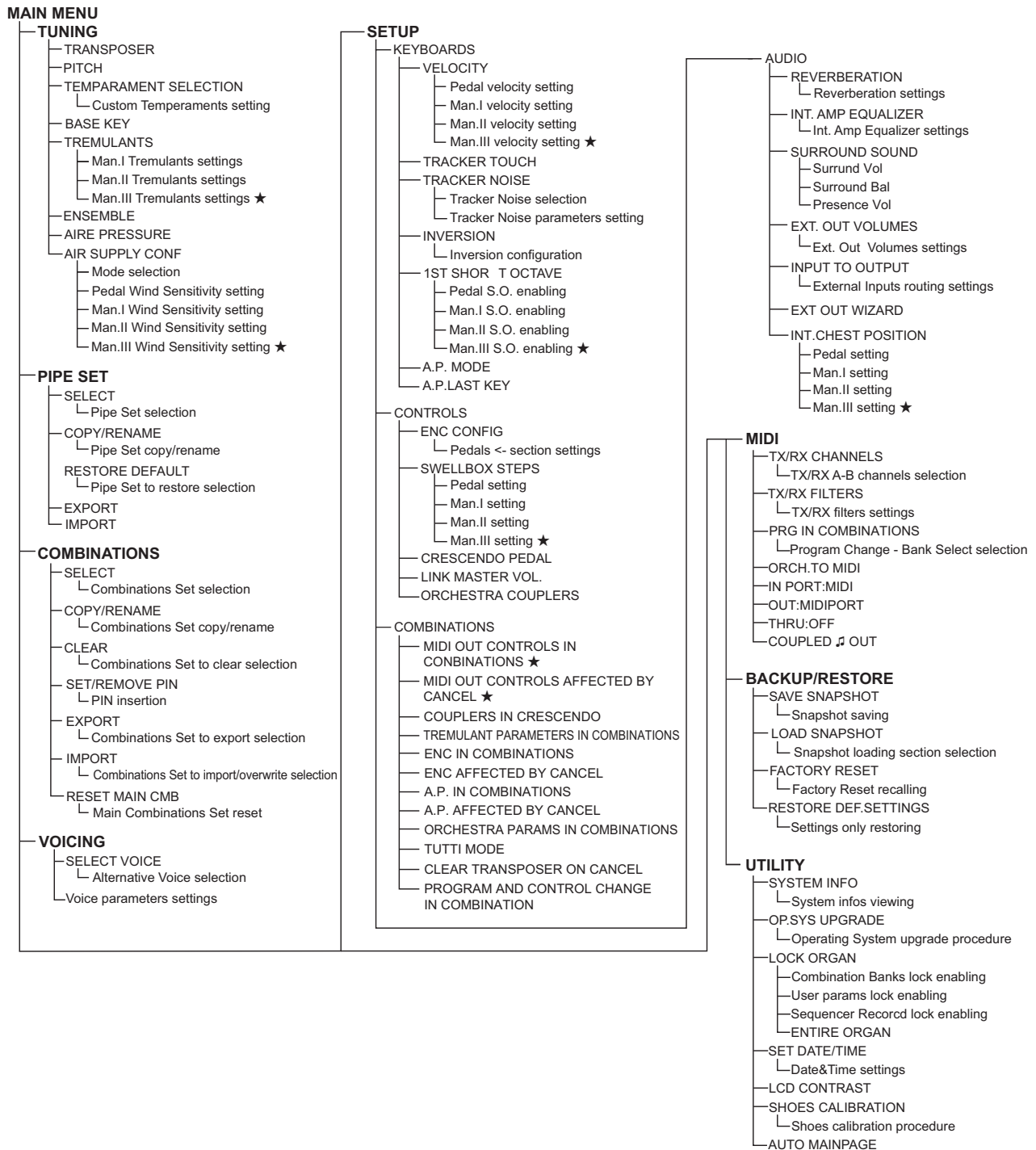
	SUBWOOFER	EXT OUT	PROG OUT 1-2	PROG OUT 3-4
1	NO	2	GENERAL L/R	×
2	NO (2 段鍵盤の場合)	4	PED/ I	MAN II
	NO (3 段鍵盤の場合)	4	PED/ II	MAN I / II
3	YES	4	1 → SUBWOOFER (低域) 2 → GENERAL L+R (MONO)	GENERAL L/R

メモ:

- ・リア接続パネルの出力端子を使用する場合、ネジを外して背面の木製パネルを一旦外す必要があります。
- ・背面の木製パネルを外したくない場合は、フロント接続パネルの[AUX OUT]端子とスピーカー(2台)を接続することも可能です(設定の必要はありません。GENERAL L/Rで出力されます)。

MAIN MENUの概要

MAIN MENU 一覧



※品番、バージョンによりMAIN MENUの表示が異なる場合があります。

※★のメニューは品番によっては、ない場合があります。

MAIN MENU 詳細

MAIN MENUからオルガンのすべての設定にアクセスできます。

メモ:

メニューによっては複数のページ画面が含まれています。その場合、画面右上に  または  の記号が表示されるので、現在のページの
前または後にもページがあることがわかります。

このメニューにアクセスするには、メイン画面で[MENU/ENTER] ボタンを押します。MAIN MENUには以下の各セクションがあります。

セクション	内容
TUNING	オルガンのチューニングパラメーター（移調、ピッチ、古典調律等）
PIPE SET	パイプセットの選択と管理
COMBINATIONS	コンビネーションスロット（CMB）の選択と管理
VOICING	交換ボイスの選択と音源パラメーターの調節
SETUP	オルガンの一般設定
MIDI	MIDI 設定
BACKUP/RESTORE	オルガン全体の設定の保存と読み込み、工場初期設定へのリセット
UTILITY	ユーティリティ機能

TUNING メニュー

TUNINGメニューには以下の各機能があります。

機能	内容
TRANSPOSER	移調を調節します。
PITCH	ピッチを調節します。
TEMPERAMENT SELECTION	調律を選択します（デフォルトは「EQUAL」）。
BASE KEY	各古典調律のベース音を設定します。
TREMULANTS	トレモロを調整します。
ENSEMBLE	歴史的楽器ならではの音色を調整します。
AIR PRESSURE	風圧によるひずみを調整します。
AIR SUPPLY CONF	風箱の位置を調整します。

PIPE SET メニュー

PIPE SETメニューには以下の各機能があります。

機能	内容
SELECT	パイプセットを選択します。
COPY/RENAME	パイプセットを使用可能なスロットの一つにコピーし、名前を変更します。
RESTORE DEFAULT	パイプセットを初期設定に戻します。
EXPORT	パイプセットを USB メモリーに保存します。
IMPORT	パイプセットを USB メモリーから使用可能なスロットの一つに読み込みます。

COMBINATIONS メニュー

COMBINATIONSメニューには以下の各機能があります。

機能	内容
SELECT	オルガンの全てのコンビネーションを一つのグループにまとめたコンビネーションスロット (CMB) を選択します。
COPY/RENAME	コンビネーションスロット (CMB) を使用可能なスロットの一つにコピーし、名前を変更します。
CLEAR	コンビネーションスロット (CMB) の内容を削除します。
SET/REMOVE PIN	コンビネーションスロット (CMB) の編集をロックまたはロック解除するためのセキュリティコード (PIN) を入力／削除します。
EXPORT	コンビネーションスロット (CMB) を USB メモリーに保存します。
IMPORT	コンビネーションスロット (CMB) を USB メモリーから使用可能なスロットの一つに読み込みます。
RESET MAIN CMB	コンビネーションスロット (CMB) を工場出荷時の初期設定に戻します。

SETUP メニュー

SETUPメニューはさまざまな機能を設定する4つのサブメニューから構成されています。

メモ:

オルガンの全モデルに搭載のSETUPサブメニューの機能すべてについて、以下に説明します。ただし、モデルによっては搭載されていない機能もあります。

KEYBOARDSメニュー: 手鍵盤と足鍵盤の設定をします。以下の各機能があります。

機能	内容
VELOCITY	手鍵盤と足鍵盤を押したときのオーケストラボイスの強弱（ベロシティ）を設定します。
TRACKER TOUCH	トラッカータッチによる発音タイミングを選択します。
TRACKER NOISE	手鍵盤と足鍵盤の鍵のトラッカーノイズのオン／オフとカスタマイズをします。
INVERSION	鍵盤反転機能の設定とオン／オフをします。
1ST SHORT OCTAVE	各手鍵盤と足鍵盤のショートオクターブの選択とオン／オフをします。
A.P. MODE	[AUTO PED] ボタンの作動モードを選択します。
A.P LAST KEY	AUTO PED の効果のかかり終わりの音を設定します。

CONTROLSメニュー: コンソールのコントローラー類の設定をします。以下の各機能があります。

機能	内容
ENC CONFIG	[ENC] ボタンの作動モードを設定します。
SWELLBOX STEPS	エクスプレッションペダルの段階数を選択します。
CRESCENDO PEDAL	[CRESCENDO] ペダルの作動モードを選択します。（エクスプレッションペダルへ変更可能）
LINK MASTER VOL.	[MASTER VOLUME] つまみの作動モードを選択します。
ORCHESTRA COUPLERS	オーケストラボイスにかかるカプラーのタイプを選択します。

COMBINATIONSメニュー:本機のコンビネーションの作動モードを設定します。以下の各機能があります。

機能	内容
MIDI OUT CONTROLS IN COMBINATIONS	コンビネーションに MIDI タブレット／ボタンの状態を保存するか否かを切り替えます。
MIDI OUT CONTROLS AFFECTED BY CANCEL	[C] ボタンで MIDI タブレット／ボタンをオフにするか否かを切り替えます。
COUPLERS IN CRESCENDO	クレッシェンドにカブラーの状態（およびそのタイプ）を保存するか否かを切り替えます。
TREMULANT PARAMETERS IN COMBINATIONS	コンビネーションにトレモロパラメーターを保存するか否かを切り替えます。
ENC IN COMBINATIONS	ジェネラルコンビネーションに [ENC] ボタンの状態を保存するか否かを切り替えます。
ENC AFFECTED BY CANCEL	[C] ボタンで [ENC] ボタンをオフにするか否かを切り替えます。
A.P. IN COMBINATIONS	ジェネラルコンビネーションに [AUTO PED] ボタンの状態を保存するか否かを切り替えます。
A.P. AFFECTED BY CANCEL	[C] ボタンで [AUTO PED] ボタンをオフにするか否かを切り替えます。
ORCHESTRA PARAMS IN COMBINATIONS	コンビネーションにオーケストラボイスの設定パラメーターを保存するか否かを切り替えます。
TUTTI MODE	トゥッティコンビネーションをジェネラルコンビネーションの代わりにストップで使用する（内容を入れ替える）か、レイヤーモードにする（内容を追加する）かを選択します。
CLEAR TRANSPOSER ON CANCEL	C ボタンによる切り替えを有効 / 無効にします。
PROGRAM AND COTROL CHANGE IN COMBINATIONS	MIDI プログラムチェンジメッセージとコントロールチェンジメッセージの送信モードを、コンビネーションの呼び出し状況によって選択します。

AUDIOメニュー:オーディオ設定をします。以下の各機能があります。

機能	内容
REVERBERATION	残響効果を設定します。
INT. AMP EQUALIZER	内蔵アンプの 5 バンドイコライザーを設定します。
SURROUND SOUND	サラウンドシステムの効果を、お好みの応じて調節することができます。
EXT. OUT VOLUMES	リア接続パネルの [PROG. OUT] オーディオ端子から出るサウンドのボリュームを設定します。
INPUT TO OUTPUT	オーディオ入力をリア接続パネルの [PROG. OUT] オーディオ端子にルーティングします。
EXT OUT WIZARD	リア接続パネルの [PROG. OUT] オーディオ端子を使って外部スピーカー等との接続によりオルガン音を出す際の事前設定をします（バージョン 1.4.0 以上）。
INT.CHEST POSITION	ステレオパノラマ内でディビジョン全体（マニュアルⅠ、Ⅱ、Ⅲまたはペダルボード）の音を移動できる機能で、必要に応じて音を左または右に移動調節できます。

MIDI メニュー

MIDIメニューには以下の各機能が 있습니다。

機能	内容
TX/RX CHANNELS	各鍵盤セクションの MIDI 送信および受信チャンネル A/B を設定します。
TX/RX FILTERS	データ送受信時の MIDI フィルターを設定します。
PRG IN COMBINATIONS	コンビネーションに MIDI プログラムチェンジおよびバンクセレクトメッセージを保存します。
ORCH.TO MIDI	1 つまたは複数のオーケストラボタンを MIDI コントロールに変換して、各マニュアルとペダルボードの MIDI ノートコードの送信を有効 / 無効にします。
IN PORT:MIDI	MIDI データを受信するコネクタを選択します。
OUT:MIDI PORT	MIDI データを送信するコネクタを選択します。
THRU:OFF	ソフトスルー機能の再送信ポートを有効にして選択します。IN PORT パラメーターで選択したコネクタから受信した MIDI メッセージを再送信します。
COUPLED  OUT	カブラーをかけたノートの MIDI 送信をオン / オフします。

BACKUP/RESTORE メニュー

BACKUP/RESTOREメニューには以下の各機能が 있습니다。

機能	内容
SAVE SNAPSHOT	オルガン全体の設定（パイプセット、コンビネーション、各種設定）を USB メモリーに保存します。
LOAD SNAPSHOT	オルガン全体または個々の鍵盤セクションの設定（パイプセット、コンビネーション、各種設定）を USB メモリーから読み込みます。
FACTORY RESET	オルガン全体の設定（パイプセット、コンビネーション、各種設定）を工場出荷時の初期設定に戻します。
RESTORE DEF. SETTING	本機の設定を工場出荷時の状態に戻します。

UTILITY メニュー

UTILITYメニューには以下の各機能が 있습니다。

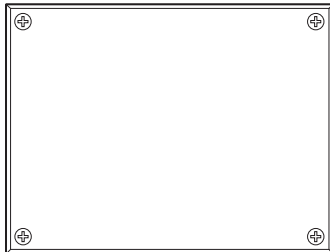
機能	内容
SYSTEM INFO	本機のファームウェアバージョンとその他の情報を表示します。
OP.SYS UPGRADE	本機のオペレーティングシステムのアップデートを行います。
LOCK ORGAN	本機の SETUP メニュー画面へのアクセス防止、および各種設定、コンビネーション、ソング録音の変更や保存を防止するため、オルガンをロックする暗証コードを設定します。
SET DATE/TIME	内蔵クロックの日付と時間を設定します。
LCD CONTRAST	ディスプレイのコントラストを調節します。
SHOES CALIBRATION	エクスペリションペダルを調整します。
AUTO MAIN PAGE	10 秒間表示機能が使用されなかった場合、メインページに自動的に戻す設定ができます（ON/OFF）。

録音と再生（SEQUENCER機能）

本機には、オルガンで演奏した曲と使用した音色、コマンドやコントローラー類、[MIDI IN] 端子で受信したMIDIデータを記録し、再生できる機能が内蔵されています。

この録音は内部メモリーまたはUSBメモリーにMIDIファイルとして保存され、いつでも再生することができます。

[SONG] ボタンを押すと、5つの操作モードを選択するSEQUENCER画面が表示されます。



[↑]/[↓] ボタンでモードを選び、[MENU/ENTER] ボタンで決定します。

モード	内容
PLAY	内部メモリーまたは USB メモリーに保存された演奏を再生します。
PLAY OPTIONS	曲の再生のためのオプションを設定します。
RECORD	演奏した曲を録音します。
SONG LIST	プレイリストを作成します。
DELETE	録音した曲や作成したプレイリストを削除します。

前の画面に戻るには、[EXIT] または [SONG] ボタンを押します。または、4秒間何も操作しないと前の画面に戻ります。

画面下部には現在使用されているメモリーが表示されます。内部メモリーよりUSBメモリーの方が優先されるため、内部メモリーを使用するには先にUSBメモリーを外す必要があります。

メモ：

- USBメモリーを挿入し、数秒待ってからSEQUENCER機能呼び出してください。USBメモリーが認識されない場合は[EXIT] ボタンを押してSEQUENCER機能を終了し、もう一度呼び出してください。
- USBメモリーを使用する場合は、FATまたはFAT32ファイルシステムにフォーマット済みのものを使用してください（NTFSは使用できません）。
- TUNINGメニューで行った移調設定は、曲の再生の際には無効になります（録音時には、移調設定が有効になります）。

曲を再生する（PLAY）

SEQUENCER画面で「PLAY」を選択します。現在使用中のメモリーに保存されたMIDIファイルが表示されます。

再生するMIDIファイルを選択します。

曲の再生に必要な機能が画面に表示されます。

- **[ENTER]**: 曲の再生を開始します。
- **[EXIT]**: 曲の再生を終了します。
- **[^]**: メモリー内またはプレイリスト(ソングリスト)内で前の曲を選択します。
- **[v]**: メモリー内またはプレイリスト(ソングリスト)内で次の曲を選択します。
- **[-]** (1回押し): 再生速度を遅くします。画面左上に元の速度を100としてパーセントで表示します(上記画面の例では100)。
- **[+]** (1回押し): 再生速度を速くします。画面左上に元の速度を100としてパーセントで表示します(上記画面の例では100)。
- **[-]** (長押し): 巻き戻します。
- **[+]** (長押し): 早送りします。



曲の再生が始まるとディスプレイが変わり、[ENTER] ボタンおよび[EXIT] ボタンのはたらきが、下記のように変わります。

- **[ENTER]**: 曲の再生を一時停止／再開します。
- **[EXIT]**: 曲の再生を停止します。

[^]、[v]、[-]、[+] ボタンの機能は変わりません。

再生オプションを選ぶ（PLAY OPTIONS）

SEQUENCER画面で「PLAY OPTIONS」を選択します。メニューには複数の選択肢があります。

機能	内容
Transposer	シーケンサーで再生する曲の移調を半音単位で設定します。
Song Loop	この機能を「ON」に設定すると、曲が終了した時に、再び同じ曲を再生します。
List Autoplay	この機能を「ON」に設定すると、曲が終了した時に [v] を押さなくても自動的に次の曲が再生されます。プレイリスト（ソングリスト）でのみ有効です。
List Loop	この機能を「ON」に設定すると、プレイリスト（ソングリスト）の最後の曲が終了した時に、自動的に最初の曲が再生されます。また、プレイリスト（ソングリスト）の曲を1曲ずつ再生して次の曲を頭出し状態でスタンバイさせます。

メモ:

- プレイリスト(ソングリスト)内の曲を全曲リピート再生する場合は、「List Autoplay」と「List Loop」を両方オンにします。

曲を録音する (RECORD)

SEQUENCER画面で「RECORD」を選択します。ファイルのリストが表示されます。新たに曲を録音するには、[NEW SONG]を選択します。または、ほかのMIDIファイルを読み込んでオーバーダビングします。すでに録音された演奏に新たな録音を追加することができます。

画面下部にはボタンの機能が表示されます。

- [MENU/ENTER]: 録音を開始します。
- [EXIT]: シーケンサー機能を終了します。

録音が始まると、ボタンの機能は下記に変更されます。

- [MENU/ENTER]: 録音を一時停止／再開します。
- [EXIT]: 録音を停止します。

[EXIT]を押して録音を終了すると、録音を保存するための画面が表示されます。以下の機能を利用できます。

- **SAVE**: 録音をMIDIファイルとして保存します。
- **PLAY**: 録音を保存する前に再生します。
- **OVERDUB**: 呼び出した曲に新たな録音を加えます。
- **DISCARD AND EXIT**: 録音を削除し、シーケンサーのRECORDモードを終了します。

「SAVE」を選択すると、保存するMIDIシーケンスの名前を入力する画面が表示されます。

ファイルの名前を入力するには、[^]/[v]ボタンでカーソルを移動し、[+]/[-]ボタンで文字を選択します。最初の3文字に入力できるのは数字のみです。

ファイル名を確定してデータを保存するには[MENU/ENTER]ボタンを押します。保存を中止して前の画面に戻るには[EXIT]ボタンを押します。

ファイルが保存されると確認メッセージ「SONG SAVED (曲が保存されました)」が表示されます。



プレイリストを作成する (SONG LIST)

SONG LIST機能を使って楽曲(MIDIファイル)のプレイリストを作成し保存することができます。

プレイリストを作成するには、SEQUENCER画面で「SONG LIST」を選択します。新しいリストを作成するか既存のリストを変更するかを選択する画面が表示されます。

「NEW LIST」を選択して新しいリストを作成するか、.LSTファイルを選択してファイル内のリストを変更します。

リストの作成・編集はいずれの場合も以下の手順にしたがいます。

1. リストに入りたい曲を選択します。[△]/[▽]ボタンでMIDIファイルを選択し、[+]ボタンでリストに追加、[-]ボタンでリストから削除します。ファイル名の横に、その曲のリスト内での位置が表示されます。
2. [MENU/ENTER] ボタンを押して作成を続けます。操作を中止するには [EXIT] ボタンを押します。中止を確認するメッセージ「DISCARD SONG LIST?(プレイリストを破棄しますか?)」が表示されます。
3. リスト内の曲順を調整します(または既存の順序を確定します)。曲順を変更するには、[△]/[▽]ボタンでカーソルを該当するファイルのフィールドに移動し、[+]ボタンで順番を後に、[-]ボタンで順番を前に移動します。
4. リストを保存するには [MENU/ENTER] ボタンを押します。保存を中止して前の画面に戻るには [EXIT] ボタンを押します。
5. SAVE画面が表示されますので、保存したいリストの名前を入力します。MIDI ファイル名の最初の3文字は数字のみです。名前を入力するには[△]/[▽]ボタンでカーソルを移動し、[+]/[-]ボタンで文字を選択します。
6. 名前を確定して保存するには [MENU/ENTER] ボタンを押します。保存を中止して前の画面に戻るには [EXIT] ボタンを押します。リストが保存されると確認メッセージ「FILE SAVED(ファイルが保存されました)」が表示され、保存が完了します。保存用画面が表示されている間に(入力後まだ保存していない時に)[EXIT] ボタンを押すと、設定内容が削除されてもよいかという警告メッセージ「DISCARD SONG LIST?(プレイリストを破棄しますか?)」が表示され、続いて[MENU/ENTER]ボタンを押すと、設定内容が削除されて操作が終了します。削除せずに保存用画面に戻るには、[MENU/ENTER]ボタンの代わりに[EXIT]ボタンを押します。



メモ:

コンピューターを使用してUSBメモリーに保存された .LST ファイルの名前を変更する場合、名前に使用できるのは12文字以下(「_」(アンダースコア)の前にある文字も含みます)ですが、「_」、「@」、「#」などの特殊文字は使用できません。また、最初の3文字と「_」(アンダースコア)を削除しないでください。

曲を削除する (DELETE)

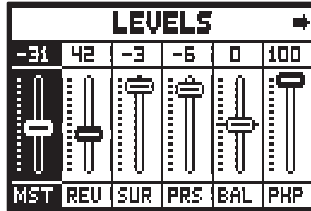
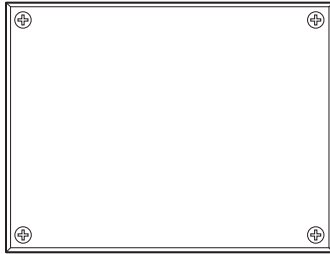
録音した曲や作成したプレイリストを削除することができます。

1. SEQUENCER画面で「DELETE」を選択し、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
2. [△]/[▽]ボタンでカーソルを削除したいファイルのフィールドに移動し、[+]ボタンを押してチェックを入れます。
3. 「DELETING * (削除するファイル数) FILES ARE YOU SURE? ENTER TO CONFORM EXIT TO ABORT」が表示されるので、[MENU/ENTER]ボタンを押します。
4. 「FILE(S) DELETED」が表示され、数秒後に表示が消えると削除が完了します。
5. SEQUENCER画面で「PLAY」を選択し、[MENU/ENTER]ボタンを押したあと、[△]/[▽]ボタンで該当ファイルが削除されているか確認されることをおすすめします。

ボリュームの調節（LEVELS機能）

各鍵盤セクション間や、内蔵アンプと外部アンプ間での音量バランスが完璧に取れるよう、各音量を調節することができます。

[LEVELS] ボタンを押すと、調節画面が表示されます。



[↑]/[↓]ボタンで調節したい項目を選び、[+]/[-]ボタンで値を調節します。

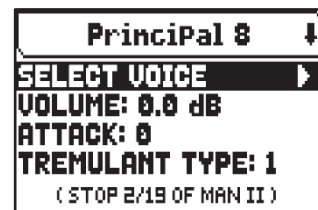
項目	内容	Sonare 40	Sonare 65
MST	オルガン全体の音量を調節します。手鍵盤の下の [MASTER VOLUME] つまみでも調節できます。	●	●
REV	内蔵アンプでの残響効果を設定します。メイン画面上で [+]/[-] ボタンを使って調節することもできます。	●	●
SUR	サラウンドレベル（サイドスピーカーの音量）の調節をします。	●	●
PRS	フロントスピーカーの音量の調節をします。	●	●
BAL	サイドスピーカーの音量バランスを調節します。	●	●
PHP	ヘッドフォンのステレオ効果、ステレオ パノラマの幅を調整します。	●	●
EXT	リア接続パネルの [PROG. OUT] 端子から出るサウンドの全体的な音量を調節します。	●	●
ERV	リア接続パネルの [PROG. OUT] 端子から出るサウンドの残響効果の程度を調節します。	●	●
AUX	AUX 入力に接続されたサウンドデバイスの音量を調節します。	●	●
PED	足鍵盤の音量を調節します。	●	●
I	第Ⅰ手鍵盤の音量を調節します。	●	●
Ⅱ	第Ⅱ手鍵盤の音量を調節します。	●	●
Ⅲ	第Ⅲ手鍵盤の音量を調節します（Sonare 65 のみ）。	—	●
ORC	オーケストラボイスの音量を調節します。	●	●

前の画面に戻るには、[EXIT]または[LEVELS]ボタンを押します。または、4秒間何も操作しないと前の画面に戻ります。

ボイスの選択と調節（VOICINGメニュー）

Physis Plusの主な特長の一つとして、膨大な量のオルガンボイスの中から選び、自分だけのお好みの音色を持つオルガンにすることができます。また、数種類のパラメーターを使って調節すればさらに音色を増やすことが可能になります。VOICINGメニューには、ボイスのオーディオパラメーターの選択と調節ができるすべての機能が含まれています。このメニューにアクセスするには、メイン画面で

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
2. 「VOICING」にカーソルを移動します。
3. [MENU/ENTER] ボタンを押します。または、変更したいストップのタブレットスイッチを長押し(オン)します。



VOICING画面が表示されると、上述のようにタブレットスイッチを使用して、調節したいストップを選択できます。

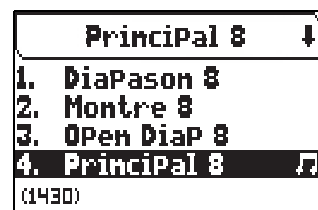
エラーを防ぐため、調節中のストップのインジケーターが点滅します。調整している間はストップがオンの状態になるため、鍵盤を演奏しながら正確かつ迅速な調節が行えます。ほかのストップも同様にオンにすれば、設定が全体的にどのような効果を及ぼすか確認できます。

メモ:

- それぞれのストップで選択されたボイスと音源パラメーターは、現在のパイプセットに自動的に保存されます。別のパイプセットが呼び出されたときには、そのパイプセットで設定されたパラメーターにリセットされます。前に設定したパラメーターは保存されていますので、再び同じパイプセットを呼び出したときに復元されます。
- VOICING メニューのパラメーターを調節中、ボイスをストップに割り当てて調節するためには、まず最初に対象となるボイスを選択してから音源パラメーターを調節してください。これは、新しいボイスを選択すると、パラメーターが初期設定にリセットされてしまうからです。

対象となるタブレットスイッチに記載された名前がVOICING画面上部に表示されます。

「SELECT VOICE」から交換ボイスのリストにアクセスできます。このリストでは、現在選択されているボイスが記号(🎹)で示されています。[▲]/[▼]ボタンでカーソルを別のボイスに移動すると、この記号(🎹)がそのボイスの横に表示されるのですぐに演奏してチェックできます。ほかのストップも同様にオンにすれば、設定が全体的にどのような効果を及ぼすか確認できます。[MENU/ENTER] ボタンを押して新しいボイスを確定すると、そのボイスが使用可能になります。設定を変更しない場合は[EXIT] ボタンを押して前のボイスを再選択します。



VOICING画面の「SELECT VOICE」の下には、選択されたストップの主要音源パラメーターが表示されています。ボイスによっては、ほかのタイプのボイスでは不要な特定のパラメーターがあるので、表示されるパラメーターは各ボイスにより異なります。

以下のパラメーターを設定できます。

パラメーター名	内容
VOLUME	ストップの音量 設定範囲：- 12 dB ~ + 12 dB
ATTACK	音が最大音量に達するまでの時間 設定範囲：- 4 ~ + 4
TREMULANT TYPE TREMOLO TYPE	ストップに効果をかけるトレモロを選択します。 設定範囲： - Off：トレモロはストップにかかりません。 - 1：第 1 トレモロ - *1*：オンにすると第 1 トレモロが自動的にストップにかかります。 - 2：第 2 トレモロ - *2*：オンにすると第 2 トレモロが自動的にストップにかかります。
TREMULANT SENS. TREMOLO SENS.	ストップに効果をかけるトレモロの量 設定範囲：0 ~ 8

パラメーター名	内容
ENSEMBLE RESCALE	Ensemble パラメーターで設定されたアンサンブル全体をリスケールします。 設定範囲：0 ～ 8
CHARACTER	ハーモニーの豊かさ 設定範囲：リード管：- 4 ～ + 4、フルー管：- 8 ～ + 8
NOISE (フルーボイスのみ)	パイプ内を通る空気が起こすノイズ音 設定範囲：- 4 ～ + 4
CHIFF (リードボイスを除く)	鍵を押して発音する際のチフ音 設定範囲：- 4 ～ + 4
CELESTE TYPE (デチューンされたボイスのみ)	ビート周波数 (うなり) のタイプ 設定範囲：Orig (オリジナル)、A -, A +, B -, B +, C -, C + (異なるデチューン曲線)
CELESTE DEPTH (デチューンされたボイスのみ)	ビート周波数 (うなり) の深さ 設定範囲：0 ～ 8
MIX BRILLIANCE (ミクスチャーボイスのみ)	ミクスチャーブリリアンス 設定範囲：- 4 ～ + 4
RANKS SWIRL (ミクスチャーボイスのみ)	異なるパイプ間でランダムにピッチをロック、または ロック解除します。 設定範囲：0 ～ 8
WAVERING (ミクスチャーボイスを除く)	ランダムなピッチ変化 設定範囲：0 ～ 8
FREQUENCY SKEW (リードボイスのみ)	アタックとリリースで徐々に生じるピッチ変化 設定範囲：0 ～ 8
RELEASE DETUNE (リードボイスを除く)	リリース中に徐々に生じるピッチ変化 設定範囲：0 ～ 8
INT. CHEST	ボイスの内蔵アンプによるステレオ音像 (パニング) 設定範囲：C - C#, C# - C, Wing L (左)、Wing R (右)、Cusp、Dbl Csp (ダブルカスプ)、Dbl (ダブル) Wing、Pan L (左)、Pan R (右)、Center、Poly、Off
BRILLIANCE (オーケストラボイスのみ)	ブリリアンス 設定範囲：- 8 ～ 8
OCT. SHIFT (オーケストラボイスのみ)	ストップで弾いた音符をオクターブ高く、または低く演奏します。 設定範囲：- 1 ～ 1
SUSTAIN (オーケストラボイスのみ)	サステインペダルの状態を設定します。サステイン効果をかけると不自然に聞こえてしまうオーケストラボイスでは、この機能を使用すると役に立ちます。「NO」を選択すると、ストップにサステイン効果はかかりません。 設定範囲：YES、NO
PAN (オーケストラボイスのみ)	サウンドのステレオ音像の設定 設定範囲：- 6 (左) ～ 6 (右)
SPLIT KEY (スプリットしたダブルオーケストラボイスのみ)	分割点のスプリットキー 設定範囲：F2 ～ E6
VELOCITY	手鍵盤と足鍵盤を押したときのオーケストラボイスのペロシティ (強弱) の設定 設定範囲：ON ～ 127
FIRST NOTE (オーケストラボイスのみ)	演奏できる最低のキーの設定 設定範囲：F# 1 ～ F7
LAST NOTE (オーケストラボイスのみ)	演奏できる最高のキーの設定 設定範囲：F# 1 ～ F7

付録

ストップのローカルオフ

ローカルオフモードに設定されたストップは、本機の内蔵音源では再生されませんが、MIDIメッセージ(システムエクスクルーシブ)が送信されるため、接続された楽器での演奏が可能になります。

ストップをローカルオフモードに設定するには、メイン画面を表示させ、[S] ボタンを押しながら[C]または[CANC]ボタンを押します。すべてのストップのインジケータが点灯し、次の画面が表示されます。ボイスをローカルオフモードに設定するには、タブレットスイッチを押してインジケータを消します。

希望する設定の状態で、[S] ボタンおよび[C]または[CANC]ボタンを同時に押して保存します。このあとローカルオフ設定機能にアクセスすると、ストップのインジケータでローカルオフ機能の状態がわかります。

- ・ **インジケータが点灯**: ストップはローカルオンモードに設定されています(内蔵音源で再生されます)。
- ・ **インジケータが消灯**: ストップはローカルオフモードに設定されています。



おかしいと思ったら

本機の設定を工場出荷時の状態に復元し、ユーザーによる変更をすべてリセットすることができます。本機では工場出荷時の初期設定にリセットする項目を選べます。

BACKUP/RESTOREメニューを使って、工場出荷時の状態に戻します。

注意!

- 保存したコンビネーションなどの消失にご注意ください。

オルガンの設定のみを工場出荷時に戻す

1. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
MAIN MENU画面が表示されます。
2. MAIN MENU画面で「BACKUP/RESTORE」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
BACKUP/RESTORE画面が表示されます。



3. BACKUP/RESTORE画面で「FACTORY RESET」を選び、[MENU/ENTER] ボタンを押します。
確認メッセージが表示されます。



4. [MENU/ENTER] ボタンを押します。
もう一度、確認メッセージが表示されます。
5. [MENU/ENTER] ボタンを押すと、リセットが開始されます。
リセット中は「RESTORING FACTORY SETTING. PLEASE WAIT」のメッセージが表示されます。
完了するとPhysis Plusのロゴが液晶画面に表示されます。

コンビネーションスロット（CMB）とメモリーバンク

本機にはコンビネーションスロット(CMB)が6つあり、それぞれメモリーが1000個あります。

コンビネーションスロット（CMB）1 の構成例

CMB	バンク番号	メモリー番号	画面表示	入力方法			
				バンク		メモリー	
				1桁目	2桁目	3桁目	
1	00	0	0	0	0	0	プリセット
		1	1	0	0	1	プリセット
		2	2	0	0	2	プリセット
		3	3	0	0	3	プリセット
		4	4	0	0	4	プリセット
		5	5	0	0	5	プリセット
		6	6	0	0	6	プリセット
		7	7	0	0	7	プリセット
		8	8	0	0	8	プリセット
		9	9	0	0	9	プリセット
	01	0	10	0	1	0	
		1	11	0	1	1	
		2	12	0	1	2	
		3	13	0	1	3	
		4	14	0	1	4	
		5	15	0	1	5	
		6	16	0	1	6	
		7	17	0	1	7	
		8	18	0	1	8	
		9	19	0	1	9	
	02	0	20	0	2	0	
		1	21	0	2	1	
		2	22	0	2	2	
		3	23	0	2	3	
		4	24	0	2	4	
		5	25	0	2	5	
		6	26	0	2	6	
		7	27	0	2	7	
		8	28	0	2	8	
		9	29	0	2	9	

CMB	バンク番号	メモリー番号	画面表示	入力方法			
				バンク		メモリー	
				1桁目	2桁目	3桁目	
	10	0	100	1	0	0	
		1	101	1	0	1	
		2	102	1	0	2	
		3	103	1	0	3	
		4	104	1	0	4	
		5	105	1	0	5	
		6	106	1	0	6	
		7	107	1	0	7	
		8	108	1	0	8	
		9	109	1	0	9	
	99	0	990	9	9	0	
		1	991	9	9	1	
		2	992	9	9	2	
		3	993	9	9	3	
		4	994	9	9	4	
		5	995	9	9	5	
		6	996	9	9	6	
		7	997	9	9	7	
		8	998	9	9	8	
		9	999	9	9	9	

音色リスト

音色リスト



交換ボイスリスト、パイプセットリスト、音色プリセットリスト



ソングリスト

Demo Songs (デモソング)

	ファイル名	作曲者名	曲名
1	001_rasortie.mid	Louis Raffy (1868-1931)	“Sortie” in D major
2	002_latoccat.mid	Auguste Larriu (1840-1925)	Toccata in F major
3	003_kilobede.mid	Johann Philipp Kirnberger (1721-1783)	Choral Prelude “Lobe den Herren, den mächtigen König”
4	004_legrandc.mid	Edmond Lemaigre (1849-1890)	Grand Chorus in F major
5	005_meschmuc.mid	Gustav Adolf Merkel (1827-1885)	Choral prelude “Schmücke dich, o liebe Seele”
6	006_balobtgo.mid	Johann Sebastian Bach (1685-1750)	Choral prelude “Lobt Gott, ihr Christen, allzugleich” BWV 609
7	007_bavonhim.mid	Johann Sebastian Bach (1685-1750)	Choral prelude “Von Himmel hoch da komm’ ich her” BWV 606
8	008_bawennwi.mid	Johann Sebastian Bach (1685-1750)	Choral prelude “Wenn wir in höchsten Nöthen sein” BWV 641
9	009_latubatu.mid	Craig Sellar Lang (1891-1971)	“Tuba Tune” in D major Op. 15
10	010_gucommun.mid	Félix Alexandre Guilmant (1837-1911)	Communion in G major Op. 15 n. 1
11	011_yoprelud.mid	Gordon Young (1919-1998)	Prelude in Classic Style

Ceremonial Songs (セレモニアルソング)

	ファイル名	作曲者名	曲名
12	901_wagwedmr.mid	Richard Wagner (1813-1833)	“Wedding March” from “Lohengrin”
13	902_princdk.mid	Jeremiah Clarke (1674-1707)	“The Prince of Denmark's March”
14	903_jesusble.mid	Johann Sebastian Bach (1685-1750)	“Jesus Bleibet” from Cantata 147
15	904_avemaria.mid	Charles François Gounod (1818–1893)	“Ave Maria”
16	905_operfect.mid	Joseph Barnby (1838-1896)	“O Perfect Love”
17	906_amazgrac.mid	John Henry Newton (1725–1807)	“Amazing Grace”
18	907_whatafri.mid	Charles Crozat Converse (1832-1918)	“What a Friend We Have in Jesus”
19	908_menwedmr.mid	Felix Mendelssohn (1809–1847)	“Wedding March” from “A Midsummer Night's Dream”

製品仕様

仕様一覧

基本情報		Sonare 65	Sonare 40
音源		Physis Plus アドバンスド・フィジカル・モデリング	
手鍵盤 (61 鍵)		3 段 ^{*1}	2 段 ^{*1}
足鍵盤		32 鍵	30 鍵
		平行凹型 / 扇凹型 ^{*2}	平行凹型
ロールスライドカバー		○	—
譜面台		木製譜面台 ^{*3}	
ストップの形状		タブレット	
エクスプレッションペダル		2	1
クレッシェンドペダル		○	
サステインスイッチ		○	
トラッカータッチ・トラッカーノイズ		○	
ストップ数と音色		Sonare 65	Sonare 40
オルガンボイス	ストップ数	51	34
	MAN III	15	—
	MAN II	13	
	MAN I	12	
	PEDAL	11	9
	交換ボイス	○	
オーケストラボイス	ストップ数	4	3
	交換ボイス	○	
パイプセット：プリセット		①モダン、②バロック、③ロマンティック、④シンフォニック	
パイプセット：ユーザー設定		4	
カブラー		6	3
トレミュラント		○	
各種機能		Sonare 65	Sonare 40
合計メモリー数 (バンク × スロット (CMB))		6,000 (6×1,000)	
メモリーボタン		10 (0 ~ 9)	
メモリー送りボタン		○	
フット・ピストン		9	3
フット・送りピストン		○	
トランスポージャー		- 6 ~ +5 (半音単位)	
リバーブ		16 種類	
古典調律		19 種類プリセット + 4 ユーザー設定	
アウト・ルーター (音色毎)		○	
録音再生機能		○	
接続 (背面)		Sonare 65	Sonare 40
入力端子		INPUT マイク : モノラル	
		INPUT (L (+R) /R)	
出力端子		PROG. OUT (4ch)	

接続 (フロント)	Sonare 65	Sonare 40
MIDI IN、MIDI OUT 端子	○	
Aux In、Aux Out 端子	○	
Phones 端子(ステレオ標準フォン端子)	○	
USB (Type-A)	○	
USB (Type-B) *4	○	
オーディオアンプ・スピーカー	Sonare 65	Sonare 40
オーディオアンプ	10×150W	8×150W
スピーカー	Renewed Surround 8.2 System	Renewed Surround 6.2 system
	計 14 個	計 10 個
	4× ツイーター	2× ツイーター
	4× ミッドレンジ	2× ミッドレンジ
	2× 10" ウーファー	2× 8" ウーファー
	2× フルレンジ	
	2× ミッドハイレンジ	
寸法・重量・外装・付属品	Sonare 65	Sonare 40
寸法：幅 × 高さ × 奥行 [cm]	145×121×69	126×117×57
寸法：幅 × 高さ × 奥行 [cm] (足鍵盤込み、譜面台使用時)	145×143×115	126×134×99
本体重量 [kg]	162	115
足鍵盤重量 [kg]	平行凹型：36/ 扇凹型：34	30
ベンチ重量 [kg]	28	26
外装	オーク調仕上げ	
カラー	ダークオーク / ライトオーク	
付属品	高さ固定ベンチ *5、日本語取扱説明書、 保証書、鍵 × 2 個	高さ固定ベンチ *5、日本語取扱説明書、 保証書
消費電力・保証	Sonare 65	Sonare 40
消費電力 (W)	500	
原産国	イタリア	
メーカー保証期間 *6	1 年	

*1：木製手鍵盤への交換可能：別料金発生

*2：扇凹型足鍵盤への交換可能：受注発注品

*3：透明譜面台への交換可能：受注発注品

*4：Physis Editor (音色の詳細調整・設定をPC 等で行う機能)への接続

*5：高低自在ベンチへの交換可能：差額料金発生

*6：通常使用時に発生した故障に対して

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には、保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印、お買い上げ日」などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命製品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。

有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ヒューズなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

●修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

 **0120-149-808**

携帯電話、IP 電話から

050-3852-4106

受付時間 月曜日～金曜日

10:00～12:00、13:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定
休日を除く)

FAX

東日本

(北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海)
03-5762-2125

西日本

(沖縄 / 九州 / 中国 / 四国 / 近畿 / 北陸)
06-6649-9340

◆製品に関するお問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン

鍵盤事業戦略部 EKB 事業企画課

TEL : 050-3147-2106

受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、弊社指定休日を除く)

ウェブサイトからの
お問い合わせはこちら





総輸入発売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

鍵盤事業戦略部 EKB事業企画課

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい5丁目1-2 横浜シンフォステージ ウェストタワー
TEL : 050-3147-2106

